

倉知委員

秘

官第三號

文官任用令案

官第四號

文官試験令案

官第五號

文官試験補及見習令案

官第六號

特別高等文官試験ニ依ル任用ノ件勅令案

官第七號

特別高等文官試験令案

6-0038

0257

官吏制度調査事項中文官任用及試験ニ關スル諸調査案別紙ノ通報告仕候

明治三十五年九月三日

政務調査委員官吏制度主査

内閣書記官長柴田家門

内閣總理大臣伯爵桂太郎殿

6-0038

0258

目録

一 總説

一 丁

一 文官任用令案(官第三號)

一 改正要領及其ノ理由

五 丁

一 勅令案

十三 丁

一 逐條説明

二十一 丁

一 文官試験令案(官第四號)

一 改正要領及其ノ理由

三十一 丁

一 勅令案

三十九 丁

一 逐條説明

五十一 丁

一 文官試補及見習令案(官第五號)

一

一 勅令案

六十五丁

一 理由及逐條説明

六十九丁

一 特別高等文官試験ニ依ル任用ノ件勅令案(官第六號)

七十七丁

一 勅令案

八十一丁

一 理由及逐條説明

一 特別高等文官試験令案(官第七號)

八十七丁

一 勅令案

九十一丁

一 理由及逐條説明

参照

一文官任用制度ノ改正ニ伴ヒ廢止又ハ改正スヘキ勅令

九十九丁

一文官試験制度ノ改正ニ伴ヒ廢止又ハ改正スヘキ法律勅令

百十一丁

一 普通任用ニ改ムル豫定ノ官職

百十三丁

一 特別任用ノ制ヲ存置スヘキ豫定ノ官職

百十七丁

一 改正案ニ於テ技術官ト認ムヘキ官職

百二十五丁

一 翻譯官通譯官及編修官ノ種類

百三十一丁

一 試補ニ要スル經費及定員調

百三十三丁

一 文官普通特別任用區別一覽

百四十七丁

一 改正案勅任用官任用資格ニ關シ必要ナル在職年數附陸海軍武官トノ比較

百五十五丁

一 判事檢事定員及試補員數調

百五十九丁

一 文官高等試験合格者採用員數表

百六十一丁

一 文官高等試験出願者合格者員數比較一覽

百六十三丁

三



總

說

一 文官高等試験ノ本試験合格者及不合格者數並學校別概表	百六十五丁
一 各試験合格者調	百六十七丁
一 司法官試補ニシテ帝國大學法科大學卒業者ヨリ採用シタル人員調	百六十九丁
一 東京帝國大學法科大學卒業生員數表	百七十一丁
一 現行試験規則ニ關スル一覽表	百七十三丁
一 高等文官試験ニ關スル各國制度ノ摘要	百七十七丁
一 巴威里國高等司法官及高等行政官並之レカ豫備ニ關スル千八百九十三年七月十二日ノ勅令	百九十三丁
一 英國文官試験制度	二百十三丁
一 參考法令(非現行)	二百四十九丁
一 參考法令(現行)	二百七十五丁

總 說

一 本案改正ニ伴ヒ文官試補制度ヲ行フカ爲司法官試補、理事試補及主理試補ヲ除クノ外試補ノ定員百十一人ヲ置キ之ニ要スル經費七萬五千四百八拾圓ヲ支出スヘキ豫定ナリ（試補ニ要スル經費及定員調参照）

但シ現時ニ於テハ高等文官タル資格ヲ有スル者ヲ判任官ニ任用シテ實務ノ練習ヲ爲サシムルカ故ニ試補制度ヲ創定スルトキハ是等判任官ニ要スル經費ヲ試補ニ要スル經費ニ轉用スルコトヲ得ヘキヲ以テ結局國庫ノ負擔ヲ増加スヘキ金額ハ凡ソ本項金額ノ半額參萬七千七百貳拾圓ト積算スレハ充分ナルヘシ

又本案改正ニ伴ヒ各種ノ試験ヲ統一シ同一種ノ試験委員ヲシテ之ヲ施行セシムルヲ以テ試験費ヲ節減スルコトヲ得ヘク別ニ改正案特別高等文官試験ニ要スル經費ヲ積算スルモ試験費ハ差引従前ノ經費ヲ増加スルコトナク幾分ノ減額ヲ見ルコトヲ得ヘキ豫定ナリ

二 本案ハ文官任用及試験ニ關スル諸法令ノ根本勅令ヲ改正スルニ在ルヲ以テ本案ノ改正ニ伴ヒ  
裁判所構成法ヲ始メトシ改廢ヲ行フヘキ法令少ナカラサルモ此等ハ本案ノ決定ヲ俟テ別ニ改  
正案ヲ提出スル豫定ナリ

三 本案ハ現在ノ官職名及其ノ職制ヲ標準トシテ調査シタルモ事務官ト技術官トノ區別ヲ明ニス  
ルノ必要アルカ爲止ムヲ得サルモノニ限り一部分ノ官名改正ヲ豫想シテ立案セリ

四 臺灣總督府文官ノ任用及試験制度ニ關シテハ内地ノ制度ト同一ニ論スヘカラサルモノアルヲ  
以テ別ニ之カ調査ヲ行フ豫定ナリ

五 本案改正ニ伴ヒ辯護士試験ハ高等文官試験ノ司法部試験ニ準シ文官試験委員ヲシテ之ヲ施行  
セシムルヲ可ナリト信ス其ノ意見ハ別案ヲ以テ具陳スル見込ナリ

官第三號

文官任用令案

文官任用制度改正要領及其ノ理由

一 勅任文官任用ノ範圍ヲ弘クシ高等文官三等ノ地位ニ在ル者ハ凡テ勅任文官ニ任用セララルコトヲ得ヘキ途ヲ開クコト

政務官ヲ除クノ外一般官吏ノ任用ニ關シテハ官等歷階ノ方法ニ依リ秩序的ニ陞任セシムルノ制ヲ採ルハ任用制度上動カスヘカラサルノ原則ナリ然レトモ勅任文官ノ職掌ハ奏任文官ノ職掌ニ比シ其ノ地位ノ高キニ伴ヒテ自ラ其ノ趣キヲ異ニシシモ専門的學識經驗ヲ以テ任用上ノ唯一ノ條件トナスヘキモノニアラス普通任用ノ行政官ハ各ハ普通ト云フト雖全體ヨリ論スルトキハ實際一種ノ専門的學識經驗ヲ有スル官吏ニ過キサルヲ以テ現行勅任官任用ノ範圍ヲ普通任用ノ行政官ニ限ルハ狹キニ失スルノ缺點アリ故ニ奏任文官ノ任用ニ關シテハ其ノ官職ノ種類ニ從ヒ各固有ノ任用條件ヲ定ムルノ必要アルニ拘ハラヌ勅任文官ノ任用ニ關シテハ官等歷階ノ原則ヲ破ラサル範圍内ニ於テ普通任用ノ行政官タルト特別任用ノ

行政官(官等俸給令改正案第四條乃至第六條ヲ適用セサル官ヲ除ク)タルト司法官タルト外交官タルト將又教官技術官タル

六

トヲ間ハス凡テ之ヲ任用スルコトヲ得ヘキ門戸ヲ開キ良吏賢才ヲ簡拔スルノ途ニ於テ遺憾ナキヲ期セムト欲ス

二 奏任文官及判任文官ノ任用ニ關シ試補及見習ノ制ヲ設クルコト

明治二十年文官試験制度ヲ創ムルニ當リ文官試補及見習ニ關スル規定ヲ設ケタリシガ當時ノ時勢ニ照シ急激ノ改革ナリシヲ以テ數年ノ後ニ至リテ之ヲ廢止シタリ現時ニ於テハ別ニ明治二十六年勅令第百八十六號文官試補及見習規程ノ存スルアリト雖實際此ノ規定ニ依リ實務ノ練習ヲ爲ス者甚稀ニシテ行政官ノ任用ニ關シ實務練習ノ方法全ク途絶セリト謂ツヘシ文官試験ノ制度ト試補及見習ノ制度トハ元ト形影相伴フヘキ關係ヲ有ス文官試験ニ依リ先ツ受験者ノ學識ヲ試験シ次ニ實務ノ練習ニ依リ實務上ノ經驗ヲ得セシメ兼テ其ノ學識ヲ實地ニ應用スルノ能力ヲ有スルヤ否ヲ考試シ學識能力共ニ完美シタル者ト認ムヘキ場合

ニ於テ始メテ之ヲ本官ニ任用スルノ順序ヲ踏ムハ官吏任用上至當ノ手續ナリ然ラスムハ往々學術ニ長シテ實際ノ活用ニ乏シキ者ヲ任用シ又ハ責任アル官吏ニシテ徒ラニ理論ニ馳セ實効如何ヲ顧ミサル者アルニ至ルノ弊アリ明治二十年文官試験試補及見習規則施行ノ當時ト現時トハ大ニ其ノ狀態ヲ異ニシ一方ニ於テハ官吏ノ更迭漸次其ノ度ヲ減シ又一方ニ於テハ官途志願ノ人材益其ノ數ヲ増加セリ現ニ判事檢事及理事主理等ノ任用ノ如キ實務練習ノ制ヲ施行シ其ノ効果觀ルヘキモノアリ殊ニ文官分限ニ關スル規定ヲ定メテ一旦任用シタル官吏ノ地位ヲ安固ナラシムル以上ハ其ノ任用ニ關シ尤モ慎重ノ手續ヲ取ルヲ要ス是レ奏任文官及判任文官ノ任用ニ關シ特別ノ場合ヲ除クノ外一般ニ試補及見習ノ制度ヲ再興セサルヘカラサル所以ナリトス但シ明治二十年ノ制ニ依レハ試補ノ實務練習期間ハ滿三年以上、見習ノ實務練習期間ハ滿二年以上ニシテ斯クノ如ク練習期間ノ長キニ失シタルハ該制度ノ實行セラレ能ハサリシ一大原因ナルヲ以テ其ノ缺點ト現時ノ實況トニ鑑ミ試補ノ實務練習

七

三 技術官ノ任用條件ヲ定ムルコト

八  
期間ヲ滿二年以上、見習ノ實務練習期間ヲ滿六箇月以上トナスヲ適度ナリト認ム

從來技術官ノ任用ニ關シテハ文官試験委員ノ銓衡ニ依ルノ外特別ノ任用條件ヲ規定セス然レトモ行政事務ノ進歩ニ伴ヒ技術官ノ地位次第ニ重要ニ趣クト技術的専門教育ヲ受クル者漸次ニ増加シ來レルトニ依リ普通文官ト同シク技術官ノ任用方法ヲ試験制度ニ採ルヘキ時運ニ向ヒ來レリ然レトモ奏任以上ノ技術官ノ任用ニ關シテハ目下直ニ此ノ制ヲ採用シ難キヲ以テ姑ク之ヲ他日ニ譲リ唯一定ノ任用資格ヲ明示シテ文官試験委員ノ銓衡標準トナシ且ツ明示シタル資格ヲ有スル者ノ銓衡手續ヲ省略セシメ及普通行政官ノ如ク技術官試補トシテ一定ノ期間實務ヲ練習セシムルコトトシ判任技術官ノ任用ニ關シテハ其ノ任用ノ濫弊ヲ防クノ急務ナルト且ツ其ノ實行決シテ困難ニ非サルヘキヲ以テ此ノ際斷然試験制度ヲ採用スルヲ可ナリト認ム

四 教官ノ任用條件ヲ規定スルコト

從來教官ノ任用ニ關シテハ技術官ノ任用條件ト同一ノ規定アルノミ教官モ技術官ト同シク將來ニ於テハ其ノ任用方法ヲ試験制度ニ採ルノ必要アルコト勿論ナリト雖教官補充ノ困難ナル今日ニ於テハ之ヲ實行シ難ク且ツ從來著シキ弊害ヲ招キタルコトナキヲ以テ姑ク現行ノ制ヲ存シ奏任技術官ノ場合ト同シク一定ノ任用資格ヲ明示シテ銓衡手續ヲ省略セシムルノ改正ヲ爲スニ止メムト欲ス

五 絶對的特別任用ノ官ヲ文官任用令中ニ規定スルコト

絶對的特別任用官ハ屢々變更セラルルコトナキヲ期スルカ爲之ヲ文官任用令中ニ規定スルヲ至當ナリト認ム但シ全權公使及辨理公使ハ別ニ外交官及領事官任用令中ニ規定スルノ豫定ナルヲ以テ之ヲ本改正案中ニ掲記セス

六 特別ノ學術技藝ヲ要スル行政官ニシテ技術官タル性質ヲ有スル者ハ名稱ノ如何ニ拘ハラズ凡

テ之ヲ技術官トシ其ノ他ハ凡テ明文ヲ以テ之レカ任用ニ關スル規定ヲ設クルコト

十

從來特別ノ學術技藝ヲ要スル行政官ノ任用ニ關シテハ區々ノ取扱ヲ爲シ或ハ通譯翻譯等ノ事務ニ従事スル官職モ之ヲ普通任用官ト同視シテ特別ノ任用令ヲ發布セルモノアリ或ハ林務官、鑛山監督官、保險事務官等ノ如キ純然タル普通事務官タルヘキ官職モ特別ノ學術技藝ヲ要スル行政官ト看做シテ特別任用ニ關スル規定ヲ設ケサルノ例アリ斯ノ如ク所謂特別ノ學術技藝ヲ要スル行政官ノ種類ニ付區々ノ解釋ヲ爲スヲ以テ往々任用上ノ本旨ヲ没却スルノ弊アリ故ニ性質上技術官タルヘキモノハ其ノ名稱ノ如何ニ拘ハラズ凡テ文官任用令ニ所謂技術官中ニ包含セシメ其ノ他ハ凡テ特別ノ明文ヲ以テ之カ任用ニ關スル規定ヲ設クルコトトシ翻譯官、通譯官、編修官等ノ如キ概括的ニ規定シ得ヘキモノニ付キテハ其ノ資格ヲ文官任用令中ニ明記シ以テ任用上ノ範圍ヲ明ニスルヲ至當ナリト認ム

七 官吏任用上ノ一般資格ニ關スル規定ナキハ現行制度ノ不備ナルヲ以テ之ヲ文官任用令中ニ規

定スルコト

説明ヲ要セス

八 區々ノ特別任用令ヲ整理改正スルコト

特別任用令ハ必要ニ伴ヒ漸次之ヲ發布セラレ現時ニ於テハ普通行政官ノ任用ニ關スル特別ノ勅令臺灣總督府ノ分ヲ除キ其ノ數七十二及ヒ特別ノ規程ニ依リ任用セラルヘキ官職ノ種類大ニ増加シ來レリ今奏任官ノミニ付キテ之ヲ見ルニ臺灣總督府ヲ除キ特別任用ノ官職ニシテ將來普通任用ノ官職ト爲スヘキ性質ノモノ官職定員千百餘人ニ及ヒ普通任用ノ官職定員ハ僅カニ四百餘人ニ過キサルナリ將來成ルヘク特別任用官ヲ廢シテ普通任用官トナスノ必要アルコトハ茲ニ之ヲ説明スルノ必要ナシ故ニ此ノ際必要止ムヲ得サルモノヲ除クノ外特別任用ノ官職ヲ普通任用ノ官職ニ改ムルノ方針ヲ以テ本案ヲ制定シ區々ノ特別任用令ヲ整理スルヲ至當ナリト認ム但シ其ノ改廢ヲ行フヘキモノハ別案ヲ以テ之ヲ提出スルノ見込

十一

ナルコトハ前文ニ之ヲ陳セリ

十二

文官任用令改正案

第一條 親任官及法令ニ別段ノ規定ヲ設クルモノノ外文官ノ任用ニ關シテハ本令ノ規定ヲ適用ス

第二條 勅任文官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一 高等官三等ノ文官官等條給令改正案第四條乃至第六條ヲ適用セサル官ヲ除クノ職ニ在ル者又ハ在リタル者

二 滿二年以上勅任文官官等條給令改正案第四條乃至第六條並同ノ職ニ在リタル者

第三條 奏任文官ハ行政官試験又ハ之ニ準スヘキ判任文官トナリ定期ノ實務練習ヲ終リタル者ノ

中ヨリ之ヲ任用ス

行政官試験ハ高等文官試験ノ行政部試験ニ合格シタル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ實務練習ヲ要セス直ニ奏任文官ニ任用スルコトヲ得

一 滿二年以上高等文官ノ職ニ在リタル者但シ檢事ヲ除クノ外特別ノ規定ニ依リ任用セラレタル者及技術官教官ノ在職年數ヲ除ク

十三



二 滿二年以上檢事ノ職ニ在ル者

第五條 判任文官ハ判任官見習トナリ定期ノ實務練習ヲ終リタル者ヲ中ヨリ之ヲ任用ス

判任官見習ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一 判任文官試験ノ普通部試験ニ合格シタル者

二 官立公立中學校又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認メタル學校商業學校以外ノ實業學校其ノ他專門技術ニ屬スル學校ノ卒業證書ヲ有スル者ヲ除ク

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ實務練習ヲ要セス直ニ判任文官ニ任用スルコトヲ得

一 高等文官試験ヲ受クル資格ヲ有スル者

二 滿二年以上文官ノ職ニ在リタル者但シ特別ノ規定ニ依リ任用セラレタル者及技術官教官ノ在職年數ヲ除ク

第七條 奏任以上ノ技術官ハ技術官試補又ハ之ニ準スヘキ判任文官トナリ定期ノ實務練習ヲ終リ

タル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

技術官試補ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一 帝國大學分科大學法科大學及文科大學ヲ除ク舊東京大學法學部及文學部ヲ除ク舊工部大學校ノ卒業證書ヲ有スル者

二 奏任以上ノ技術官ノ職ニ在リタル者又ハ奏任以上ノ教官專門技術ニ屬スルモノニ限ルノ職ニ在ル者若ハ在リタル者

三 前二號ニ準スヘキ學識又ハ經驗ヲ有スト認ムヘキ者ニシテ高等文官試験委員ノ銓衡ヲ經タル者

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ實務練習ヲ要セス直ニ奏任以上ノ技術官ニ任用スルコトヲ得

一 滿二年以上奏任以上ノ技術官ノ職ニ在リタル者又ハ滿二年以上奏任以上ノ教官專門技術ニ屬スル

モルニノ職ニ在ル者若ハ在リタル者

二 技術官試補タル資格ヲ有シ且ツ滿二年以上技術官試補ノ實務練習ニ相當スヘキ經歷アリト認ムヘキ者ニシテ高等文官試験委員ノ銓衡ヲ經タル者

第九條 判任ノ技術官ハ技術官見習トナリ定期ノ實務練習ヲ終リタル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

技術官見習ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一 判任文官試験ノ技術部試験ニ合格シタル者

二 中學校ト學科程度ヲ同フスル官立公立實業學校商業學校ヲ除ク又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認メタル專門技術ニ屬スル學校ノ卒業證書ヲ有スル者

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ實務練習ヲ要セス直ニ判任技術官ニ任用スルコトヲ得

一 技術官試補タルノ資格ヲ有スル者

二 中學校卒業以上ノ學力ヲ有スル者ヲ以テ入學程度トシ三年以上專門技術ニ屬スル學科ヲ

教授スル官公立學校又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認メタル專門技術ニ屬スル學校ノ卒業證書ヲ有スル者

三 滿二年以上判任以上ノ技術官ノ職ニ在リタル者又ハ滿二年以上判任以上ノ教官專門技術ニ屬スル限ルニノ職ニ在ル者若ハ在リタル者

第十一條 奏任以上ノ教官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一 帝國大學分科大學、舊東京大學、舊工部大學校及舊司法省法學校正則部ノ卒業證書ヲ有スル者

二 奏任以上ノ技術官ノ職ニ在ル者若ハ在リタル者又ハ奏任以上ノ教官ノ職ニ在リタル者

三 前二號ニ準スヘキ學識又ハ經驗ヲ有スト認ムヘキ者ニシテ高等文官試験委員ノ銓衡ヲ經タル者

第十二條 判任ノ教官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

- 一 官立公立中學校又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認メタル學校ノ卒業證書ヲ有スル者
- 二 判任以上ノ技術官ノ職ニ在ル者若ハ在リタル者又ハ判任以上ノ教官ノ職ニ在リタル者
- 三 前二號ニ準スヘキ學識又ハ經驗ヲ有スト認ムヘキ者ニシテ判任文官試験委員ノ銓衡ヲ經タル者

第十三條 陸海軍將官ハ別ニ任用ノ規定ヲ設クルモノノ外其ノ部内ノ勅任文官ニ任用スルコトヲ得

第十四條 左ノ諸官ハ第二條乃至第六條ノ規定ニ拘ハラズ之ヲ任用スルコトヲ得

- 一 各省官房長
- 二 祕書官
- 三 神宮司應職員

第十五條 左ノ諸官ハ第二條乃至第六條ノ規定ニ拘ハラズ教官タル資格ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ

任用スルコトヲ得

- 一 學校長
- 二 學校舎監
- 三 翻譯官
- 四 通譯官
- 五 編修官

第十六條 滿五年以上雇員トシテ同一官廳ニ勤續シタル者ハ判任文官試験委員ノ銓衡ヲ經テ直ニ其ノ官廳ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ文官ニ任用スルコトヲ得ス

- 一 未成年者
- 二 重罪ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニ依リ處刑セラレタル者ニシテ復權シタルトキハ

此ノ限ニ在ラス

三 定役ニ服スヘキ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者

四 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者又ハ身代限リノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第十八條 本令ニ於テ特別ノ規定ニ依リ任用セラレタル者ト稱スルハ本令第十三條及至第十六條ノ規定ニ依リ任用セラレタル者ヲ包含ス

第十九條 本令ニ於テ技術官ト稱スルハ醫官及藥劑官ヲ包含ス

第二十條 文官任用及銓衡ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第二十一條 本令ハ明治 年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 (諸勅令廢止ニ關スル規定)

### 文官任用令案逐條說明

#### 第一條

現行文官任用令ニ稱スル「文官」ナル語ハ單ニ行政官ノミヲ指スマ將タ司法官ヲモ包含スルヤ明瞭ヲ缺ク本條ニ於テハ特ニ「法令ニ別段ノ規定ヲ設クルモノ」外ト規定シ以テ本令ニ稱スル「文官」ナル語ノ中ニハ憲法ノ條規ニ依リ法律ヲ以テ任用資格ヲ規定スヘキ司法官ヲモ包含スルノ意ヲ明ニセリ

#### 第二條

第一號 現行文官任用令第一條第一號ニ相當ス改正ノ理由ハ前文改正要領理由第一項ニ之ヲ説明セリ

第二號 現行文官任用令第一條第二號ニ相當ス滿一年以上ヲ滿二年以上ニ改メタルハ各官ヲ通シ在職滿二年ヲ以テ任用資格ノ一要件トナセルニ依ル但書ハ本條第一號改正ノ結果ニ基

キ之ヲ削除セリ

二十一

現行文官任用令第一條第二項第三項ハ本條第一號改正ノ結果ニ基キ之ヲ削除セリ

### 第三條及第四條

現行文官任用令第二條ニ相當ス試補制度ノ制定ニ伴ヒ本案ノ如ク改正ヲ行フヲ要ス

現行文官任用令第二條第二項ハ特ニ司法省ノ奏任文官ニ限り例外規定ヲ設ケタルモノナルモ理

由ナキ條項ト認ムルヲ以テ本案ニ於テ之ヲ削除セリ

### 第五條及第六條

現行文官任用令第三條ニ相當ス見習制度ノ制定ニ伴ヒ本案ノ如ク改正ヲ行フヲ要ス

現行文官任用令第三條第三號ニ於テハ官立公立學校卒業者ニ非サレハ任用ノ資格無キモノトセ

ルモ私立學校ト雖モ文部大臣ノ監督ヲ有效ニシ官立公立學校ト同等以上ト認メ得ヘキモノハ同

一ノ特權ヲ附與スルヲ至當ナリト認ムルヲ以テ第五條第二號ニ於テ之ヲ改正セリ但シ文部大臣

ノ認定ハ一般官吏ノ任用上重大ノ關係ヲ有スルヲ以テ特權濫受ノ弊ナキヲ期スルカ爲該認定手

續ニ關シテハ閣議ヲ經ルコトトナスヲ至當ナリト認ム以下本案特權ヲ附與スヘキ學校ノ認定手

續ハ凡テ此ト同一様ナルヲ要ス

第五條第二號ニ於テ實業學校其ノ他専門技術ニ屬スル學校ノ卒業者ヲ除キタルハ普通事務官ト

技術官トノ任用資格ヲ明劃ニ分別スルノ必要アルニ基ツク

第五條ニ於テ現行文官任用令第三條第四號ノ規定ヲ存セサルハ目下ノ狀況ニ照シ其ノ資格ヲ認

ムルノ必要ナシト思考スルニ依ル

第六條第一號ニ於テ高等文官試験ヲ受クル資格ヲ有スル者ヲ直チニ本官ニ任用スルコトヲ得セ

シムル理由ハ中等教育ヲ受ケタル後滿三年以上法制經濟ノ學ヲ修業シタル者ナレハ其ノ學力ノ

點ヨリ看察シ實務練習ヲ行ハスシテ直ニ判任文官ニ任用スルモ差支無シト認メ且ツ實際ノ必要

ト判任技術官任用ノ場合ヲ斟酌セシトニ依ル

二十三

第七條及第八條

技術官試補制度ヲ制定シタル結果ナリ

第七條第二項ハ奏任技術官試補銓衡ノ標準ヲ定メ併セテ第一號及第二號ニ規定セル者ノ銓衡ヲ省略スルヲ可ナリト認ムルニ依ル

第八條第一號ニ於テ教官ハ實務ノ經歷ナキモノノ如キモ既ニ滿二年以上教官ノ職ニ在ル者ハ試補ノ實務練習ニ等シキ經歷ヲ有スルモノト認定シ得ヘキヲ以テ直チニ本官ニ任用シ得ヘキモノト規定セリ第二號ハ必シモ官歴ヲ有セサルモノト雖モ實務練習ニ相當スヘキ官歴ヲ有スル者ハ直チニ本官ニ任用スルコトヲ得ヘキ途ヲ開キ以テ第一號ヲ補充シタル規定ナリ

第九條及第十條

技術官見習制度及判任技術官試驗制度ヲ採用シタル結果ナリ各號ニ規定セル任用資格ハ普通判任文官ニ關スル任用資格ト其ノ程度ヲ同フセリ

判任技術官ノ任用ニ關シテハ本案ノ如ク試驗制ニ依ルヘシト雖モ未タ科學的ニ發達セサル技術例之特殊ノ美術、特殊ノ鑑定又ハ速記術ノ如キモノニ關シテハ或ル場合ニ於テハ試驗ヲ施行シ難ク又第九條第二項第二號第十條第二號ニ依リ該技術ヲ教授スル適當ノ學校ナキコトアリ斯ノ如キ場合ニ於テハ普通判任官ノ場合ト同シク判任技術官ニ關スル特別任用ノ規定ヲ設クルノ必要アルコト勿論トス

第十一條及第十二條

前文改正要領理由第四項ニ之ヲ説明セリ

第十三條

現行文官任用令第一條第四項ニ相當ス

第十四條及第十五條

前文改正要領理由第五項及第六項ニ之ヲ説明セリ

第十六條

現行文官任用令第六條ニ相當ス

第十七條

前文改正要領理由第七項ニ之ヲ掲ケタリ

第十八條

現行文官任用令第七條ノ主旨ニ付字句ヲ改メタルニ過キス

本令施行前明治三十二年文官任用令第七條ニ該當シタル任用ハ凡テ本令ニ所謂特別ノ規程ニ依

ル任用タルコト勿論トス

第十九條

前文改正要領理由第六項ニ之ヲ説明セリ

現行官制中技師又ハ技手ノ名稱ヲ須非サル技術官ノ種類甚タ多シ然レトモ本案ノ改正ニ伴ヒ技

術官任用ノ規定ヲ明劃ナラシムルカ爲醫官藥劑官ヲ除クノ外特別ノ名稱ヲ有スル技術官ハ一切

技師又ハ技手ニ改ムルヲ要ス例之鑑定官ヲ鑑定技師、林務官ヲ林務技師ト稱スルカ如シ（改正案

ニ於テ技術官ト認ムヘキ官職調参照）

第二十條以下

説明ヲ要セス

官第四號

文官試驗令案

6-0038

0275



文官試験制度改正要領及其ノ理由

- 一 高等文官ニ關スル各種ノ試験制度ヲ統一シテ一種トナシ之ヲ 行政部、司法部及外交部ノ三部ニ分チ同一種ノ試験委員ヲシテ之ヲ施行セシムルコト  
現行制ニ依ルニ高等文官ノ試験ハ文官高等試験、判事檢事登用試験、理事登用試験、主理登用試験、並外交官及領事官試験ノ五種ニ區別セラルルト雖此等各種試験ノ試験科目、受験人ノ學力程度、試験委員ノ組織及試験方法等ハ大同小異ナリ然ルニ斯ノ如ク區々ノ試験ヲ各別ニ施行スルカ如キハ啻ニ無用ノ手數ヲ重ネテ試験事務ヲ煩雜ナラシムルノミナラス各種ノ試験ニ付寬嚴ノ程度自ラ相異リ合格者ノ學識能力往々彼此均衡ヲ失フノ弊アリ故ニ本項ノ如キ改正ヲ行ヒ以テ試験事務ノ簡易ト齊正トヲ期セムコトヲ欲ス
- 二 高等文官試験ニ關スル帝國大學法科大學卒業者ノ特典ヲ全廢シ高等文官試験受験者ノ資格ハ各部ヲ通シテ中等教育ヲ受ケ且ツ三年以上法制經濟ノ學ヲ修メタル者ニ限定スルコト

現行制ニ依ルニ判事檢事登用第一回試験、理事試補登用試験及主理試補登用試験ハ帝國大學法科大學卒業者ニ限り之ヲ免除スルノ規定アルモ該試験ト同等ノ程度ニアルヘキ文官高等試験並外交官及領事官試験ニ付既ニ帝國大學卒業者ノ特典ヲ廢止シタル以上ハ其ノ主旨ニ基キ此ノ特例ヲ全廢スルヲ至當トス從來司法官ノ補充ニ關シテハ常ニ豫定ノ人員ヲ採用スルコトヲ得サリシヲ以テ此ノ特例ヲ存置シタリシ理由止ムヲ得サリシト雖一方ニ於テハ此ノ際司法官ノ待遇ヲ高ムルト又一方ニ於テハ帝國大學卒業者ノ増加ニ伴ヒ本項ノ如ク改正ヲ加フルモ司法官ノ補充上困難ヲ見ルノ虞ナカルヘシト信ス

普通學ノ素養無クシテ専門ノ學科ヲ修メタル者ハ常識ノ發達ヲ缺キ膠柱ノ弊アルコト免ルヘカラサル所トス普通學ノ高等文官タル資格ニ必要ノ條件タルコト多言ヲ須非スシテ明瞭ナリ故ニ右ノ如ク帝國大學卒業者ノ特典ヲ全廢スルト同時ニ各部ヲ通シ受験者ノ資格ヲ制限シ中學程度ノ普通教育ヲ受ケ且ツ三年以上法制經濟ノ學ヲ修メタルコトヲ以テ高等文官タル資格ニ必要ノ條件トナサムト欲ス

三 現行文官高等試験ノ豫備試験ヲ廢止スルコト

現行文官高等試験ノ豫備試験ハ中學校卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ本試験ヲ受クルニ相當ナル學科ヲ修メタル者ト認ムルコトヲ得ヘキヤ否ヲ考試スルヲ以テ其ノ目的トナスト雖其ノ試験科目及試験方法等ニ付看察スルトキハ名實相副ハサルノミナラス別ニ前項ノ如ク受験者ノ資格ヲ制限スルノ規定ヲ設クル上ハ之ヲ廢止スルヲ當然ナリト認ム

四 現行判事、檢事登用試験、理事登用試験及主理登用試験ハ學術試験及實務試験ノ二回ニ分チテ之ヲ行フノ制ナルモ凡テ一回試験ノ制トナスコト

理論上ヨリ見レハ文官試補制度ノ施行ニ伴ヒ學術試験ノ外實務上ノ能力ヲ試験スルハ至當ノ順序ナリト雖之ヲ既往ノ實験ニ徵スルニ實務試験ハ形式上ノ手續ニ流レテ實効甚タ稀ナ

ルヲ以テ寧ロ定期ノ實務練習ヲ終リタル者ハ本屬長官ノ認定ニ依リ之ヲ本官ニ登用セシムルヲ適當ナリト認ム

五 現行外交官及領事官試験ノ第一次試験及第二次試験ノ區別ヲ廢止スルコト

現行外交官及領事官試験ニ於テハ第一次及第二次試験ノ區別ヲ設ケ第一次試験ニ於テハ外國語ノ外公文摘要及口述要領筆記ニ付試験ヲ行ヒ第二次試験ニ於テハ法制經濟等ノ學科目ニ付試験ヲ行フノ制ナルモ外國語ハ他ノ試験科目ト同時ニ之ヲ試験シ又公文摘要及口述要領筆記ハ受験者ノ資格ノ制限ニ伴ヒ之ヲ存置スルノ必要無キヲ以テ第一次試験及第二次試験ノ區別ヲ設クルノ必要ナシト認ム

六 高等文官試験ノ試験科目ヲ必須科目及撰擇科目ニ區別スルノ制ヲ改メ各部ニ付受験者ノ試験科目ヲ一定シ且ツ試験科目ノ一部ヲ加除改正スルコト

現行文官高等試験ニ於テハ財政學、商法、刑事訴訟法、民事訴訟法ハ之ヲ撰擇科目トナセルモ

財政學及商法ハ一般行政官ニ必須ノ科目ナルヲ以テ之ヲ必須科トシ刑事訴訟法及民事訴訟法ハ比較的ニ之ヲ缺キ得ヘキ科目ナルヲ以テ之ヲ省略シ別ニ一般行政官ニ缺クヘカラサル統計學ノ一科目ヲ加フルヲ可ナリト認ム

司法部試験ノ科目ニ付キテハ現行制ト之ヲ異ニスルノ必要ナシ唯理事試験補登用試験、主理試験補登用試験ノ科目ハ現行制ニ於テ民事訴訟法及商法ノ二科目ヲ缺キ別ニ陸海軍刑法及陸海軍治罪法ヲ加フルモ元來陸海軍刑法及治罪法ハ普通刑法及刑事訴訟法ノ例外規定ニ屬シ此等特種ノ事項ハ試験ノ實務練習期間ニ於テ之ヲ自修セシムルヲ至當ト認ムルヲ以テ之ヲ試験科目中ニ加ヘス又民事訴訟法及商法ハ理事又ハ主理ノ實務上直接ニ必須ノ科目ニ非サルモ一般ニ執法官タル者ノ通曉セサルヘカラサル學科ニ屬スルヲ以テ特ニ理事試験補及主理試験補志願者ニ限り之ヲ缺クコトナク普通司法官ノ試験科目ト區別セサルヲ可ナリト認ム

現行外交官及領事官試験ニ於テハ撰擇科目ノ數十科目ニ上ルモ此レ徒ラニ試験ヲ煩雜ナ

ラシムルニ過キサルヲ以テ從來ノ必須科目ニ加フルニ刑法民法行政法外交史又ハ商業史及外國語ヲ必須科目トナスヲ可ナリト認ム

七 試験合格者ノ試験合格有効期限ヲ付スルノ制ヲ廢止スルコト

現行制ニ依ルニ外交官及領事官試験ニ合格シタル者ノ試験合格有効期限ハ合格後外交官又ハ領事官ニ任用セラレタル者ヲ除クハ外滿二年間トナセルモ一旦試験ニ合格シタル者ハ其ノ外交官又ハ領事官ニ任用セラルルト否トニ拘ハラズ既得ノ學識能力ヲ保有スルモノト認メ得ヘキモノニシテ有効期限ヲ定ムルカ如キハ受験者ニ對シ酷ニ失スルノ嫌アルヲ以テ之ヲ廢止スルヲ至當ナリト認ム

八 現行文官普通試験ヲ判任文官試験ト改メ之ヲ普通部及技術部ノ二部ニ分ツコト

判任技術官ノ任用方法ヲ試験制度ニ採ルノ結果之ヲ二部ニ分別シテ各別ニ之ヲ施行スルノ必要ヲ生シタルニ依ル

九 判任文官試験各部ノ試験科目ヲ規定スルコト

現行文官普通試験ノ科目ニ關シテハ各廳ノ普通文官試験委員ニ於テ尋常中學校ノ課程ヲ標準トシ適宜之ヲ定ムルノ制ナルモ其ノ各官廳ノ試験科目及程度頗ル區々ニ涉ルノ弊アルヲ以テ之ヲ統一スルカ爲文官試験令中ニ之ヲ規定スルヲ可ナリト認ム  
普通部試験ニ付其ノ試験科目ヲ規定スル以上ハ技術部試験ニ付キテモ亦其ノ試験科目ヲ文官試験令中ニ規定スルノ必要アルコト勿論ナリ然レトモ後者ノ試験科目中専門技術ニ屬スル科目ヲ一々列擧スルハ却ツテ煩ナルヲ以テ判任文官試験委員ヲシテ試験期日公告ノ際必要ニ伴ヒ之ヲ指定セシムルヲ至當ナリト認ム

文官試験令案

第一章 總則

第一條 文官試験ハ別ニ規程ヲ設クルモノノ外本令ニ依リ之ヲ行フ

第二條 文官試験ヲ分チテ高等文官試験及判任文官試験ノ二種トス

第三條 試験ハ筆記試験及口述試験ノ二方法ニ依リ之ヲ行ヒ筆記試験ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第四條 文官試験ヲ行フヘキ期日及場所ハ豫メ官報ヲ以テ之ヲ公告シ其ノ東京以外ノ地ニ於テ行フ試験ニ在リテハ仍其ノ地方ノ新聞紙一種以上ニ公告スヘシ

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ文官試験ヲ受クルコトヲ得ス

一 重罪ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニ依リ處刑セラレタル者ニシテ復權シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 定役ニ服スヘキ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者

三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者  
又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第六條 文官試験ニ合格シタル者ニハ合格證書ヲ附與シ其ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第七條 試験合格者ヲ定ムル方法ハ試験委員ノ議定スル所ニ依ル

第八條 不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケムト企テタル者及試験ニ關スル規定ニ違背シタル者ハ其ノ  
期ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス試験ヲ終了シタル後此等ノ事實發覺シタルトキハ其ノ試験ヲ無効  
トス

第九條 試験委員ハ場合ニ依リ出願者ノ體格検査ヲ行ヒ検査ニ合格セサル者ノ受験ヲ拒ムコトヲ  
得

第十條 文官試験ヲ出願スル者ハ高等文官試験ニ在リテハ金拾圓、判任文官試験ニ在リテハ金貳

圓ヲ試験手数料トシテ政府ニ納付スヘシ

前項手数料ノ納付ニ關シテハ收入印紙ヲ用非之ヲ願書ニ貼付スヘシ其ノ願書ヲ取下ケ又ハ試験  
ヲ受ケサル場合ニ於テモ之ヲ還付セス

第二章 高等文官試験

第十一條 高等文官試験ハ毎年一回東京ニ於テ高等文官試験委員之ヲ行フ

第十二條 高等文官試験ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ハ成年以上ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當ス  
ル者ニ限ル

一 中學校卒業以上ノ學力ヲ有スル者ヲ以テ入學程度トスル官立公立學校ニ於テ三年以上法律  
學、政治學又ハ經濟學ヲ修メ其ノ卒業證書ヲ有スル者

二 中學校又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認メタル學校ヲ卒業シ且ツ文部大臣ノ指定シタ  
ル私立學校ニ於テ三年以上法律學、政治學又ハ經濟學ヲ修メ其ノ卒業證書ヲ有スル者

三 外國ノ大學校又ハ文官高等試験委員ニ於テ之ト同等以上ト認メタル外國ノ學校ニ於テ三年

以上法律學、政治學又ハ經濟學ヲ修メ其ノ修業證書ヲ有スル者

第十三條 試験ハ行政部、司法部及外交部ノ三部ニ分チ之ヲ行フ

第十四條 行政部試験ノ科目左ノ如シ

- 一 憲法
- 二 刑法
- 三 民法
- 四 行政法
- 五 國際公法
- 六 商法
- 七 經濟學

八 財政學

九 統計學

司法部試験ノ科目左ノ如シ

- 一 憲法
- 二 刑法
- 三 民法
- 四 行政法
- 五 國際公法
- 六 商法
- 七 國際私法
- 八 民事訴訟法





九 刑事訴訟法

外交部試験ノ科目左ノ如シ

一 憲法

二 刑法

三 民法

四 行政法

五 國際公法

六 經濟學

七 國際私法

八 外交史又ハ商業史

九 外國語

各部又ハ兩部ニ共通セル科目ハ其ノ部ノ受験者ヲ通シテ之ヲ試験ス但シ試験委員ニ於テ特ニ分別シテ試験ヲ行フノ必要アリト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 外交史又ハ商業史ハ受験人ヲシテ出願ノ際其ノ中ニ就キ一科目ヲ撰擇セシム

外國語ハ英語、佛語又ハ獨逸語ノ中ニ就キ受験人ヲシテ出願ノ際其ノ一ヲ撰擇セシム但シ必要

ノ場合ニ於テハ試験期日公告ノ際豫メ其ノ種類ヲ指定スルコトヲ得

受験人ノ願ニ依リ前項ノ外他ノ外國語ニ就キ試験ヲ行フコトアルヘシ

前項ノ試験ヲ受ケムトスル者ハ其ノ旨豫メ願書ニ記載スヘシ

第十六條 同一期ニ於テ一部以上ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第十七條 高等文官試験ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

第三章 判任文官試験

第十八條 判任文官試験ハ各官廳ノ須要ニ應シ其ノ廳ノ判任文官試験委員之ヲ行フ



第十九條 試験ハ普通部及技術部ノ二部ニ分チ之ヲ行フ

第二十條 普通部試験ハ中學校ノ科程ヲ標準トシ左ノ科目ニ依リ之ヲ行フ

- 一 讀書
  - 二 作文
  - 三 筆寫
  - 四 算術
  - 五 地理
  - 六 歴史
  - 七 法制及經濟ノ大意
- 以上ノ科目ハ撰擇取捨スルコトヲ得ス
- 八 現行法規

- 九 幾何代數
- 十 博物學
- 十一 理化學
- 十二 簿記
- 十三 圖畫
- 十四 外國語

以上ノ科目ハ判任文官試験委員ノ見込ニ依リ受験者ヲシテ其ノ中ニ就キ豫メ一科目又ハ數科目ヲ撰擇セシメ又ハ試験期日公告ノ際判任文官試験委員ニ於テ一科目又ハ數科目ヲ指定シ之ヲ試験ス

現行法規ハ判任文官試験委員ニ於テ試験期日公告ノ際其ノ範圍ヲ指定スヘシ

第二十一條 技術部試験ハ中學校ト學科程度ヲ同フスル實業學校ノ科程ヲ標準トシ左ノ科目ニ依

リ之ヲ行フ

一 作文

二 算術

三 幾何代數

四 理化學

五 専門技術ニ屬スル學科目

以上ノ科目ハ撰擇取捨スルコトヲ得ス

専門技術ニ屬スル學科目ハ判任文官試験委員ニ於テ試験期日公告ノ際一科目又ハ數科目ヲ指定

スヘシ

六 現行法規

七 讀書

八 筆寫

九 地理

十 歴史

十一 博物學

十二 簿記

十三 圖畫

十四 外國語

以上ノ科目ハ判任文官試験委員ノ見込ニ依リ受験者ヲシテ其ノ中ニ就キ豫メ一科目又ハ數科目ヲ撰擇セシメ又ハ試験期日公告ノ際判任文官試験委員ニ於テ一科目又ハ數科目ヲ指定シ之

ヲ試験ス

現行法規ハ判任文官試験委員ニ於テ試験期日公告ノ際其ノ範圍ヲ指定スヘシ

第二十二條 判任文官試験ニ關スル細則ハ當該官廳長官之ヲ定ム

附則

第二十三條 本令ハ明治 年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四條 本令施行前文官高等試験ニ合格シタル者ハ高等文官試験ノ行政部試験ニ合格シタル者判事檢事第一回登用試験、理事補登用試験、主理補登用試験ニ合格シタル者ハ高等文官試験ノ司法部試験ニ合格シタル者、外交官及領事官試験ニ合格シタル者ハ高等文官試験ノ外交部試験ニ合格シタル者、文官普通試験ニ合格シタル者ハ判任文官試験ノ普通部試験ニ合格シタル者ニ該當ス

第二十五條 (諸勅令廢止ニ關スル規定)

文官試験令案逐條説明

第一條

現行文官試験規則第一條ニ相當ス

第二條

現行文官試験規則第二條ニ相當ス該規則ニ於テハ文官試験ヲ分チテ文官高等試験及文官普通試験ノ二種トナセルモ本條ニ於テ其ノ名稱ヲ高等文官試験及判任文官試験ニ改メタリ其ノ理由ハ本案判任文官ニ關スル試験ヲ普通部及技術部ノ二部ニ分ツヲ以テ「普通」ナル文字ノ混雜ヲ避クルノ必要アルニ依ル

第三條

現行文官試験規則第十五條ニ相當ス該規則ニ依レハ本條ハ文官高等試験ニノミ適用セラレルモ各官廳ニ於テ行フ文官普通試験ハ通常口述試験及筆記試験ノ二方法ニ依リ之ヲ行フノ例ナルヲ

以テ一般ニ通シテ此ノ規定ヲ適用スルコトトセリ

現行各種試験規則中同主旨ノ規定アリ(各種試験規則ト稱スルハ外交官及領事官試験規則判事  
検事登用試験規則、理事試補登用試験規則及主理試補登用試験規則ヲ指ス以下同シ)

第四條

現行文官試験規則第三條ニ相當ス

現行各種試験規則中同主旨ノ規定アリ

第五條

現行文官試験規則第四條ニ相當ス年齢ニ關スル制限ハ受験資格ニ關スル規定中ニ加フルヲ可ナ  
リト認ムルヲ以テ之ヲ第十二條ニ譲リ且ツ各號ノ字句ヲ修正セリ

現行各種試験規則中同主旨ノ規定アリ

第六條

現行文官試験規則第六條ニ相當ス該規則ニ依レハ合格者ノ氏名ヲ官報ニ公告スルコトハ施行細  
則ニ讓レルモ本條中ニ加フルヲ可ナリト認ム

現行各種試験規則ハ本條ニ相當スル規定ヲ設ケタルモノト否ラサルモノトアリ然レトモ一般ノ  
合格者ニ對シ本條ヲ適用スルヲ可トスルコト勿論ナリ

第七條

現行文官試験規則第十六條ニ相當ス該規則ニ依レハ本條文官高等試験ニノミ適用セララルモ一  
般ニ通シテ此ノ規定ヲ適用スルヲ可ナリト認ム

現行判事検事登用試験規則第十三條第三十二條及理事試補登用試験規則第十二條ニ於テハ試験  
合格者ヲ定ムル爲一定ノ規定ヲ設クルモ寧ロ試験委員ノ意見ニ一任スルヲ可ナリト認ム其ノ他

ノ現行各種試験規則中ニハ本條ト同主旨ノ規定アリ

第八條

現行文官試験規則第六條ノ字句ヲ修正シタルニ過キス

現行外交官及領事官試験規則ヲ除クノ外各種試験規則中ニハ本條ノ如キ明文ナキモ一般ニ不正  
違法者ニ對スル制裁ノ規定ヲ設クルノ必要アルコト勿論ナリト認ム

第九條

體格検査ニ關シテハ現行文官試験規則中何等ノ規定ナク各種試験規則中ニハ或ハ之ヲ規定セル  
モノト否ラサルモノトアルモ體格ノ健否ハ官吏任用上最重要ノ事項ニ屬スルヲ以テ文官試験  
ニ關シ一般ニ通シテ此ノ規定ヲ設クルヲ至當ナリト認ム然レトモ試験施行ノ際凡テノ場合ニ於  
テ必ス體格検査ヲ行ハシムルハ煩ニ過クルノ嫌アルヲ以テ試験委員ノ見込ニ依リ必要ト認ムル  
場合ニ於テ之ヲ施行セシムルヲ至當ナリト認ム

第十條

第一項 現行文官試験規則第七條ノ字句ヲ修正シタルニ過キス

第二項 現行文官試験規則中ニハ之ヲ規定セシテ施行細則ニ讓レルモ受験者ノ權利ニ關係ア  
ル規定ナルヲ以テ本項ノ如ク勅令中ニ規定スルヲ可ナリト認ム

現行各種試験規則中同主旨ノ規定アリ

第十一條

現行文官試験規則第八條ニ相當ス

現行各種試験規則中ニハ定期施行ノモノト必要ニ應シ施行スルモノトノ別アルモ試験ニ合格シ  
タル者ハ必ス試補ニ採用セサルヘカラサルニ非ルヲ以テ目下缺員ナキ場合ト雖トモ試験ヲ施行  
スルモ可ナリ又必要ニ應シ施行スト規定セルモノモ實際上毎年一回以上高等官ノ試験ヲ施行シ  
タル例ナキヲ以テ凡テ毎年一回試験ヲ施行スルヲ適度ナリト認ム

第十二條

前文改正要領理由第二項ニ之ヲ説明セリ



第一號 帝國大學法科大學、舊東京大學法學部、及文學部、舊司法省法學校正則部、高等學校舊法學部、高等商業學校、法科大學撰科卒業生等ヲ指スモノナリ

第二號 法制及經濟ニ關スル私立學校ニシテ諸般ノ設備校則等完全ナリト認ムヘキモノヲ指定シテ其ノ卒業者ニ受験資格ヲ與フルノ豫定ナリ

曩時私立學校特別認可ノ制ヲ設ケタリシカ所期ノ目的ニ適ハサリシヲ以テ幾モナク之ヲ廢止シタリ現時ニ於テハ司法官試験ノ受験資格ニ付司法大臣ノ指定學校ノ制アルモ殆ムト何等ノ實效ナシト云フモ可ナリ畢竟私立學校ニ對スル政府ノ監督不充分ナルノ結果ナリ故ニ此ノ際一面ニ於テハ此ノ特權ヲ附與スルト同時ニ一面ニ於テハ其ノ監督方法ヲ嚴ニシ就中入學試験及卒業試験ニ付嚴格ナル條件ヲ定メ以テ前轍ヲ踏ムコトナカラムコトヲ期セサルヘカラス但シ學校ノ指定處分ハ文部大臣ヲシテ之ヲ行ハシムルヲ至當ト認ムト雖モ文官任用令逐條説明中ニ陳セルカ如ク其ノ按件ヲ閣議ニ提出セシムルヲ可ナリト信ス

第三號 外國ノ大學校ハ各國其ノ制ヲ異ニシ隨ツテ修業者ノ學力ノ程度差等ナキニ非スト雖モ苟モ大學ナル名稱アル學校ニ於テ修業シタル者ハ第一號又ハ第二號ニ準スヘキ學力ヲ有スルモノト推定スルコトヲ得ヘシ大學ノ名稱ヲ付セストモ文官試験委員ニ於テ大學校ト同等以上ト認メタル學校ヲ卒業シタル者亦同シ假リニ米國大學ヲ以テ外國大學校中最低度ノモノト看做サハ獨逸又ハ佛國等ニ於テ之ト同等ト認メ得ヘキ專門學校ヲ卒業シタル者ハ當然受験資格ヲ與フルヲ至當ナリト認ム

本條ノ制定ニ伴ヒ高等文官試験ノ豫備試験、外交官及領事官試験ノ第一次試験ヲ施行スルノ必要ナキコトハ前文改正要領理由中ニ之ヲ陳セリ又之ト同シク判事檢事登用試験規則第五條、理事試補登用試験規則第三條、主理試補登用試験規則第四條ハ之ヲ廢止スルヲ當然ナリト認ム  
要之本條ハ現行法ニ比シ一般ニ受験資格ヲ嚴重ニ制限シ秩序的豫備教育ヲ受ケサル者ヲシテ萬



一ヲ僥倖スルカ如キ弊ナカラシムコトヲ期スルニ在リ

第十三條

本按ニ於テ各種ノ高等文官試験ヲ網羅シ同一試験委員ヲシテ試験ヲ舉行セシムト雖モ高等文官ノ種類ニ依リ特別科目ノ試験ヲ行フノ必要アルヲ以テ之ヲ三部ニ分チ行政部ハ普通行政官、司法部ハ判事檢事主理、外交部ハ外交官及領事官タラムコトヲ志願スル者ノ爲ニ試験ヲ行フヲ可ナリト認ム

第十四條

第一項 前文改正要領理由第六項ニ之ヲ説明セリ

第二項 各部又ハ兩部共通ノ科目ハ各受験者ヲ通シテ試験ヲ行フヲ便トス然レトモ試験問題ノ撰定又ハ試験時間ノ都合等ニ依リ共通科目ト雖モ分別シテ試験ヲ行フヲ可トスル場合ナキニ非ス是本項但書ヲ設ケテ其ノ活用ヲ試験委員ニ委スル所以ナリ

第十五條

第一項 外交史及商業史中一科目ヲ撰擇セシムル結果ナリ

第二項 現行外交官及領事官試験規則第四條、第七條第二號及明治二十八年勅令第七十五號ニ

相當ス

第三項及第四項 外交官及領事官試験規則第十條ニ相當ス

第十六條

各部ニ共通シテ試験ヲ行フヘキ科目多キトキハ受験者ノ多數ハ兩部又ハ三部ヲ通シテ試験ヲ受ケムコトヲ志望スルニ至ルヘシ果シテ斯ノ如クムハ(一)特別試験ノ科目ニ關シ受験者ヲシテ何レノ部ニ於テカ僥倖的ニ合格セムコトヲ希望スルノ弊ヲ生シ(二)合格者ノ前途ノ方針ヲ迷ハシメ易ク(三)各部特別ノ試験科目ニ付キテハ試験ノ時日ヲ區別セサルヘカラサルノ不便アリ故ニ本條ノ如ク試験科目ハ各部ニ付不可分トシ以テ受験者ノ志望ヲ多方面ナラシメサラムコトヲ期ス



第十七條

現行文官試験規則第十七條ニ相當ス

第十八條

現行文官試験規則第十八條ニ相當ス

第十九條

判任技術官ノ任用ヲ試験制度ニ採ルノ結果ナリ

第二十條

現行文官試験規則第十九條ニ相當ス試験科目ヲ一定セル理由ハ前文改正要領理由第九項ニ之ヲ説明セリ

本條ノ科目ハ現行各廳文官普通試験細則中ニ規定セル試験科目ヲ斟酌取捨シテ之ヲ定メタリ而シテ法制及經濟ノ大意ノ一科目ヲ必須科目ニ加ヘタルハ判任文官トシテ一般ニ法制及經濟ノ概

念ヲ知得スルノ必要アルヲ認ムルニ依ル又撰擇若ハ指定ノ科目ヲ多クセル理由ハ判任官ノ種類ニ依リ職務ノ性質相異ルモノ多ク隨テ其ノ試験科目ヲ全然同一模型ニ容レ難キコトヲ顧慮セルニ依ル

第二十一條

前文改正要領理由第九項ニ之ヲ説明セリ其ノ他ハ前條規定ト同一ノ理由ニ基ツク

第二十二條

現行文官試験規則第二十條ニ相當ス現行制ニテハ試験委員ヲシテ試験細則ヲ定メシムル規定ナルモ當該官廳長官ヲシテ之ヲ定メシムルヲ至當ナリト認ム又現行制ニテハ其ノ制定シタル細則ヲ文官高等試験委員ニ報告スル規定アルモ無用ノ手續ニ屬スルヲ以テ之ヲ省略スルヲ至當ナリト認ム

第二十三條以下



説明ヲ要セス

六十二

官第五號

文官試補及見習令案

6-0038

0293

文官試補及見習令案

第一條 試補及見習ハ各官廳ノ須要ニ應シテ之ヲ任用シ實務ヲ練習セシム

第二條 試補ノ實務練習期間ハ少クトモ滿二年、見習ノ實務練習期間ハ少クトモ滿六箇月トス

疾病又ハ兵役ノ爲實務ヲ練習セサル日數試補ニ在リテハ百二十日以内、見習ニ在リテハ三十日以内ハ實務練習期間ニ算入ス賜暇其ノ他ノ事故ニ依リ事務ヲ練習セサル日數試補ニ在リテハ六十日以内、見習ニ在リテハ十五日以内亦同シ

前項ノ場合併起スルトキハ通計シテ試補ニ在リテハ百二十日以内、見習ニ在リテハ三十日以内ノミ之ヲ算入ス

第三條 試補及見習ハ本屬長官ノ定ムル所ニ從ヒ實務ヲ練習スヘシ

第四條 試補及見習ノ實務練習中ハ其ノ所屬官廳ノ主務長官ノ指揮監督ヲ受ク

第五條 主務長官ハ其ノ廳ノ官吏ノ中ニ就キ特ニ實務練習ヲ指導スヘキ者ヲ指名スルコトヲ得

第六條 主務長官本屬長官タル場合ヲ除クハ其ノ官廳ニ於テ練習ヲ了リタル試補又ハ見習ノ實務練習ノ功程品行及之ニ關スル意見書ヲ試補又ハ見習ノ本屬長官ニ具狀スルコトヲ要ス

第七條 本屬長官ハ試補又ハ見習ニシテ職務上ノ義務ヲ怠リ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス官吏タルニ必要ノ品位ヲ失ヒタリト認ムルトキ又ハ事務習熟ノ見込ナシト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ罷免スルコトヲ得

第八條 各官廳試補ノ定員ハ別ニ之ヲ定ム

第九條 試補ハ奏任ノ待遇トシ見習ハ判任ノ待遇トス

第十條 試補ニハ年額六百圓以内、見習ニハ月額二十五圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

見習ニ要スル手當ハ各官廳判任俸給豫算定額内ヨリ之ヲ支給ス

第十一條 試補ニ任用セラルヘキ資格ヲ有スル者ハ判任文官トシテ實務ヲ練習セシムルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ實務練習ニ關シ試補ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

第十二條 本令ハ明治 年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本令施行後三年間ハ技術官試補ヲ除クノ外試補ノ實務練習期間ヲ滿一年迄、見習ノ實務練習期間ヲ滿三箇月迄ニ短縮スルコトヲ得

當分ノ内技術官試補ノ實務練習期間ヲ滿一年迄ニ短縮スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ第二條第二項及第三項ノ日數ハ各其ノ半ヲ以テ之ヲ計算ス

第十四條 本令施行前文官高等試験又ハ外交官及領事官試験ニ合格シタル後試補又ハ判任文官ト

シテ在職シタル期間ハ本令ニ依ル行政官試補又ハ外文官試補ノ實務練習期間ニ算入ス

本令施行前司法官試補、理事試補又ハ主理試補トシテ在職シタル期間ハ本令ニ依ル司法官試補、

理事試補及主理試補ノ實務練習期間ニ算入ス

第十五條 本令施行前判任文官タルノ資格ヲ有シテ見習又ハ雇員トシテ在職シタル期間ハ本令ニ

依ル見習ノ實務練習期間ニ算入ス

第十六條 文官試補及見習規程ハ之ヲ廢止ス

文官試補及見習令案制定理由及逐條說明

文官ノ任用方法ヲ慎重ナラシムル爲實務練習ノ制ヲ設クルノ必要アルニ依ル

司法官、理事及主理其ノ他特別ノ官職ニ付キテハ從來ヨリ試補及見習ニ關スル特別ノ規定ヲ設ク  
ト雖統一上之ヲ本案中ニ網羅スルヲ至當ナリト認ム但シ稅務管理局見習員及專賣局見習員ハ本案  
中ニ定ムル所ノ見習トハ稍趣ヲ異ニスルヲ以テ特別ノ規定ヲ存スルヲ可ナリト認ム

逐條說明

第一條

說明ヲ要セス

第二條

試補ノ實務練習期間ヲ滿一年トセハ練習ノ實效ヲ擧クルニ足ラス左レハトテ明治二十年ノ試補

制度ノ如ク之ヲ滿三年ト爲スハ我國現時ノ狀態ニ照シ長キニ失スルヲ以テ現行司法官試補ノ實  
務練習期間ヲ斟酌シテ滿二年トセリ見習ノ實務練習期間ハ試補ノ練習期間ヲ標準トシ滿六箇月  
ヲ以テ相當ト認ムルニ依ル

第二項ハ實務練習ノ制ヲ有效ニシ試補及見習ヲシテ練習中怠慢ニ流ルルカ如キ弊ナキコトヲ期  
セムト欲スルニ依ル

第三條

試補及見習ノ實務練習ヲ爲スヘキ官廳及其ノ練習方法等ニ付キテハ本屬長官ヲシテ便宜ニ從ヒ  
之ヲ定メシムルヲ相當ナリト認ム

第四條乃至第九條

説明ヲ要セス

第十條

元來試補及見習ニハ俸給又ハ手當ヲ支給セサルノ制トナスヲ至當ト認ムヘキモ我國現時ノ狀態  
ニ照シ無給制ヲ採用シ得ヘキニ非サルヲ以テ現行檢事代理タル司法官試補ノ給與及從來高等文  
官試験ニ合格シタル者ヲ文官ニ任用セル場合ノ俸給並官等俸給令改正案判任官俸給最低額等ヲ  
斟酌シテ本條ノ額ヲ定メタリ  
試補ノ定員ハ勅令ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルノ豫定ナルヲ以テ其ノ手當ハ本官ノ俸給ト區別シテ之  
ヲ豫算スルノ必要アルモ見習ハ寧ロ定員ヲ定メサルヲ便宜ナリト認ムルヲ以テ隨ツテ判任俸給  
豫算定額内ヨリ其ノ手當ヲ支給セシムルヲ可ナリト認ム

第十一條

高等官ノ實務練習ニ關シテハ必シモ試補ニ任用スルコトナクモ判任文官トシテ實務ヲ練習セ  
シメ難キニ非ラス故ニ例外トシテ必要ニ應シ試補定員以外ニ於テ判任文官トシテ實務ノ練習ヲ  
爲サシムルハ目下ノ事情ニ照シ便宜ナリト認ム但シ其ノ俸給ハ各廳判任俸給豫算定額内ヨリ支

給スヘキコト勿論ナリ

第十二條

説明ヲ要セス

第十三條

經過規定トシテ本條ヲ設クルノ必要アリ而シテ技術官試補ニ限り實務練習期間ヲ短縮シ得ヘキ

經過期限ヲ明定セサル理由ハ缺員補充上ニ困難ナカラムコトヲ期スルニ依ル

第十四條

前條ト同シク經過規定トシテ本條ヲ設クルノ必要アリ

本令施行前文官高等試験又ハ外交官及領事官試験ニ合格シタル者ニ對シ尙實務練習ヲ要スルモ

ノトスルハ稍不穩當ノ如ク見ユルモ試補又ハ判任文官トシテ在職シタル者ニ限りテ右ノ制限ヲ

免除スルトキハ未就職者ト權衡ヲ失スヘク左レハトテ在職者及未就職者共ニ該制限ヲ免除スル

モノトセハ本案制定ノ精神ヲ没却スルノ嫌アルヲ以テ唯試補又ハ判任文官トシテ在職シタル期

間ノミヲ實務練習期間ニ通算スルヲ至當ナリト認ム

第二項ハ疑義ヲ省クカ爲規定セルニ過キス

第十五條

第十四條ト同主旨ニ依リ通算ヲ爲スノ必要ヲ認ムルニ依ル

第十六條

説明ヲ要セス



官第六號

特別高等文官試験ニ依ル任用ノ件勅令案

6-0038

0299

特別高等文官試験ニ依ル任用ノ件勅令案

第一條 左ニ掲クル諸官ハ當分ノ内當該官職ノ特別高等文官試験ヲ經テ其ノ合格證書ヲ有スル者  
ノ中ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

- 一 北海道廳支廳長
- 二 府縣島司
- 三 府縣郡長
- 四 廳府縣警視(警察署長ニ補スヘキモノ)
- 五 港務官(衛生事務ニ從事スルモノ)
- 六 司稅官
- 七 專賣局事務官
- 八 裁判所書記長



九 集治監典獄

十 集治監分監長

十一 廳府縣典獄

十二 陸軍監獄長

十三 海軍監獄長

十四 通信事務官補

十五 鐵道事務官補

第二條 滿二年以上前條各號ノ一ニ該當スル官ニ在職シタル者ハ當分ノ内文官任用令及本令ノ規定ニ拘ハラズ其ノ官職ニ任用スルコトヲ得

第三條 北海道廳支廳長及府縣島司ト府縣郡長 司稅官ト專賣局事務官 集治監典獄集治監分監長 廳府縣典獄及陸軍監獄長ト海軍監獄長トハ前二條ノ任用ニ關シ交互同一官職ト看做ス

附則

第四條 本令ハ 年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 (諸勅令廢止ニ關スル規定)

特別高等文官試験ニ依ル任用ノ件勅令案制定理由及逐條説明

普通ノ行政事務官ノ任用ニ關シテハ成ルヘク特別任用制ヲ廢止スルノ必要アルヲ以テ此ノ方針ニ  
基キ別案特別任用令ノ改正整理ヲ行フヘシト雖郡長、警視、典獄、司稅官又ハ之ニ準スヘキ官職ノ如  
キハ今遽カニ普通資格ヲ有スル者ヲ以テ其ノ官職ヲ充タスヘキニ非サルカ故ニ姑ク現行制ヲ繼續  
スルノ必要アリ然レトモ現行制ニ於テハ官歴ト試験委員ノ銓衡トニ依リ任用資格ヲ制限スルニ過  
キス而シテ其ノ官歴ハ固ヨリ之ヲ以テ高等官タル能力ヲ有スルヤ否ヤヲ判定スルニ足ル唯一ノ準  
繩トナスコトヲ得ス試験委員ノ銓衡ハ此ノ缺ヲ補フカ爲設ラレタル制ナレトモ實際上一片ノ履歷  
書ニ依リテ資格ノ有無ヲ判斷スルニ在ルヲ以テ殆ムト形式上ノ手續タルニ過キス此ノ故ニ此ノ種  
ノ官職ノ任用ニ關シ情弊纏綿シテ適材ヲ擧クルコト能ハサルハ現時ノ通弊ナリ  
曩キニ明治二十年郡區長試験任用ノ制ヲ定メタリシカ幾モナクシテ其ノ實効ノ少キヲ理由トシテ  
之レカ施行ヲ停止シ以テ現今ニ及ヘリ然レトモ(一時世ノ進歩ニ伴ヒ郡長ノ職務ハ益々重要ニ趣キ

隨ツテ其ノ任用方法ハ益々之ヲ慎重ニ爲スノ必要アリ(二)該試驗規則ニ依レハ受験者ハ官歴ヲ有スルト否トニ拘ラス弘ク一般ヨリ志願セシムルノ制ナリシヲ以テ全ク行政事務ニ經驗無キ者ニシテ往々該試験ニ合格シタルノ缺點アリシカ若シ受験者ニ對シ一定ノ資格ヲ限ルトキハ斯ノ如キ虞ナキヲ得ヘシ(三)將來漸次ニ普通資格ヲ有スル者ヲ以テ郡長ニ充ツル方針ヲ採ルノ必要アルヲ以テ判任官ヨリ郡長ニ任用スヘキ位地自ラ減少シ隨ツテ其ノ撰擇方法ヲ一層嚴ナラシムルノ必要アリ(四)郡長ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ任用セラルルモノナリト雖實際ニ於テハ地方長官ヲシテ之ヲ推薦セシムルノ慣例ナルヲ以テ當ニ情弊ヲ豫防スルノ必要アルノミナラス地方ニ依リ郡長ノ實力ニ差等アルカ如キコトナキヲ期セサルヘカラス(五)試験制度ハ判任官ヲ獎勵シテ實務ニ勉勵セシムルノ一端トナル故ニ此ノ際試験任用ノ制ヲ復興シテ適任者ヲ選拔スルノ途ヲ計ルヲ可ナリト認ム郡長以外ノ特別任用ノ高等官ニ付キテハ從來試験任用ノ制ヲ採用シタル例ナシト雖是亦郡長ノ任用ト同理由ニ依リ此ノ際試験任用制ヲ行フヲ至當ナリト認ム

## 逐條説明

## 第一條

特別任用ノ奏任事務官ハ特別高等文官試験ニ合格シタル者ノ中ヨリ任用スルヲ以テ原則トナスノ主旨ニ依リ本條ヲ規定ス然レトモ例外トシテ該試験制ニ依ルノ必要ナク隨ツテ之ヲ本條中ニ掲記セサル官職アリ學校長學校舎監千住製絨所長陸海軍武官又ハ理事主理ヨリ任用スル監獄長等ノ如キ是ナリ(特別任用ノ制ヲ存置スヘキ豫定ノ官職調参照)

## 第二條

本令施行前ニ第一條ニ掲クル官ニ在職シタル者一旦退職シタル後ハ更ニ試験ヲ受クルニ非ザレハ任用資格ナキ者ト爲スハ酷ニ過クルヲ以テ一定ノ年限在職シタル者ニ限り試験合格者ト同一ノ資格ヲ有セシムルヲ可トスルニ依ル其ノ年限ヲ滿二年トナシタルハ文官任用令ノ一般ノ例ニ

倣ヘルモノナリ

八十四

第三條

北海道廳支廳長及島司郡長ハ官名ヲ異ニスト雖其ノ職務ノ性質殆ムト相同シキヲ以テ其ノ試験及任用資格ヲ異ニスルノ必要ナク其ノ他ノ官職ニ付キテモ亦同一理由ニ依リ共通ノ試験及任用資格ヲ定ムルノ必要アルニ依ル

第四條以下

説明ヲ要セス

官第七號

特別高等文官試験令案

6-0038

0304

特別高等文官試験令案

第一條 特別高等文官試験ハ明治 年勅令第 號第一條ニ掲クル各種ノ官職ニ付各別ニ之ヲ行フ但シ同令第三條ノ規定ハ本令ニ之ヲ準用ス

第二條 特別高等文官試験ハ筆記試験及口述試験ノ二方法ニ依リ之ヲ行ヒ筆記試験ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第三條 特別高等文官試験ハ毎年一回東京ニ於テ高等文官試験委員之ヲ行フ但シ必要ニ應シ臨時ニ之ヲ行フコトアルヘシ

筆記試験ハ北海道廳又ハ府縣廳ニ於テ高等文官試験委員ノ送付シタル問題ニ付北海道廳長官若ハ府縣知事又ハ其ノ代理者ノ監督ノ下ニ之ヲ行フコトヲ得

第四條 特別高等文官試験ヲ行フヘキ期日及場所ハ豫メ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第五條 特別高等文官試験ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ハ滿五年以上官務ニ従事シ現ニ判任官ニ等以

上ノ官職ニ在ル者ニシテ本屬長官ノ推薦シタル者ニ限ル

本屬長官前項ノ推薦ヲ爲スニ當リテハ受験者ノ試験ヲ受クヘキ官職ノ種類ヲ指定スルコトヲ要ス

第六條 特別高等文官試験ノ筆記試験ハ當該官職ノ實務上必要ノ事項ト認ムヘキ範圍内ニ於テ左ノ科目ニ依リ之ヲ行フ

一 論文

二 公文立案

三 現行法令

口述試験ハ筆記試験ニ準シ適宜ノ問題ヲ撰定シ之ヲ試験ス

第七條 特別高等文官試験ニ合格シタル者ニハ合格證書ヲ附與シ其ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第八條 試験合格者ヲ定ムル方法ハ試験委員ノ議定スル所ニ依ル

第九條 不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケムト企テタル者及試験ニ關スル定規ニ違背シタル者ハ其ノ期ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス試験ヲ終了シタル後此等ノ事實發覺シタルトキハ其ノ試験ヲ無効トス

第十條 特別高等文官試験ヲ受ケムトスル者ハ試験手数料トシテ金十圓ヲ政府ニ納付スヘシ

前項ノ手数料ノ納付ニ關シテハ收入印紙ヲ用井之ヲ願書ニ貼付スヘシ其ノ願書ヲ取下ケ又ハ試験ヲ受ケサル場合ニ於テモ之ヲ還付セス

第十一條 特別高等文官試験ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本令ハ明治 年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

特別高等文官試験令案制定理由及逐條説明

特別試験ニ依ル高等文官任用ノ制ヲ採用スル結果本案ヲ制定スルノ必要アルニ依ル

逐條説明

第一條

特別高等文官試験ヲ經テ任用スルコトヲ得ヘキ官職ハ其ノ種類區々ニシテ職務ノ性質相異ル所多シ隨ツテ之レカ試験ノ種類モ亦自ラ相異ラサルヲ得ス故ニ各種ノ官職ニ付各別ニ試験ヲ行フノ必要アルハ止ムヲ得サル所ナリ本條但書ニ於テ例外ノ規定ヲ設ケタルハ特別高等文官試験ニ依ル任用ノ件勅令案第三條ノ主旨ニ同シ

第二條

説明ヲ要セス



第三條

特別高等文官試験ハ特種ノ試験委員ヲ設置スルニ及ハス高等文官試験委員ヲシテ之ヲ施行セシムレハ充分ナルヘシ但シ該試験ハ主トシテ實務上ノ智識能力ヲ試験スルニ在ルヲ以テ實務ニ經  
驗アル各省高等官ヲ試験委員中ニ加フルノ必要アルコトハ勿論トス

筆記試験ハ地方廳ニ於テ之ヲ施行スルコトヲ得ヘキ便法ヲ設クルヲ可トスルモ明治二十年内務  
省令郡區長試験規則ニ規定セル如ク口述試験ヲモ地方廳ニ於テ便宜之ヲ施行スルコトヲ得ルモ  
ノトスルハ試験事務統一上甚不可ナリ又若シ受験者ヲ中央ニ召集スルノ煩ヲ避クルカ爲口述試  
験ヲ行ハスシテ單ニ筆記試験ノミトナストキハ試験ノ手續甚簡略トナリ得ヘキモ試験其ノモノ  
ハ寧ロ口述試験ニ重キヲ置クノ必要アルヲ以テ之ヲ省略セサルヲ至當ナリト認ム

第四條

説明ヲ要セス

第五條

郡區長試験規則ニ依ルニ受験者ノ資格ハ年齢ノ外何等ノ制限無キヲ以テ往々實務ニ無經驗ナル  
者ニシテ試験ニ合格シタル缺點アリシコトハ前文ニ之ヲ陳述セリ本條ハ現行制ヲ斟酌シテ一定  
ノ官歴ヲ有シ且ツ本屬長官ノ推薦シタル者ニ限り試験ヲ受クルコトヲ得セシメ以テ前轍ヲ蹈マ  
サラシコトヲ豫期セリ畢竟特別高等文官試験ハ現行特別任用制ニ依ル銓衡制ヲ有效ナル試験制  
ニ改メタルニ過キスト云フコトヲ得ヘシ但シ現行制ニ於テハ官歴ニ關シ區々ノ規定アルモ之ヲ  
統一スルノ必要アルヲ以テ一般ニ判任官二等以上ト定メタリ

第六條

特別文官高等試験ハ實務上ノ能力ヲ試験スルヲ以テ其ノ主眼トナスヘキヲ以テ其ノ試験科目ハ  
文官高等試験ノ科目ト大ニ其ノ趣ヲ異ニシ高尚ナル學理上ノ問題ヲ發シテ試問ニ應セシムルノ  
必要ナシ故ニ試験委員ニ於テ當該官職ノ實務上必要ノ事項ト認ムヘキ範圍内ニ於テ問題ヲ發セ



シムルヲ可トス例之郡長試験ニ付キテハ地方制度、勸業教育土木兵事等ニ關スル地方廳ノ事務、警視試験ニ付キテハ司法警察及行政警察並衛生ニ關スル事務ニ付問題ヲ發スルカ如キ是ナリ是レ本條中ニ於テ試験科目ヲ學科目ニ區分スルノ例ヲ採ラサル所以ナリ  
郡區長試験規則中ニハ公文立案及現行法令ノ外郡區長ニ任用セラルヘキ地方特有ノ風土人情物産等ニ關スル事項ヲ以テ試験科目ノ一トナセリト雖現時ニ於テハ斯ノ如キ事項ハ殆ムト試験ヲ行フノ價值ナキモノト認ムルヲ以テ本條中ニ之ヲ加ヘス

第七條乃至第九條

説明ヲ要セス

第十條

特別高等文官試験ノ受験者ハ本屬長官ノ推薦ニ依ルト雖固ヨリ強制シテ試験ヲ受ケシムルノ主旨ニ非ラス受験者ノ志願ト推薦トヲ條件トスルモノナリ故ニ其ノ試験ニ關シ普通ノ例ニ倣ヒテ

試験手数料ヲ徴收スルハ當然ナリト認ム

第十一條以下

説明ヲ要セス

参

照

6-0038

0310

○文官任用制度ノ改正ニ伴ヒ廢止又ハ改正スヘキ勅令(臺灣總督府ニ係ル分ヲ除ク)

一明治二十六年勅令第八十四號

明治二十六年勅令第八十三號文官任用令施行前高等文官タリシ者及同令施行ノ際現ニ行政官試補若クハ判任文官タル者任用ノ件

廢止

一明治二十八年勅令第二百二十四號

内閣總理大臣祕書官及各省大臣祕書官任用ノ件(臺灣總督祕書官ヲ包含ス)

廢止

一明治三十三年勅令第六十二號

内閣書記官長及各省官房長ノ任用及分限ニ關スル件

廢止

一明治二十六年勅令第八十七號

外交官領事官及書記生任用令

改正

一明治二十六年勅令第八十八號

一 領事官特別任用令 百八十八號 改正

一 明治二十八年勅令第八十五號 改正

一 通譯生ニ領事官特別任用令適用ノ件 改正

一 明治二十八年勅令第八十六號 改正

一 通譯官及通譯生任用ノ件 廢止

但シ第五條ハ別ニ之ヲ定ムルヲ要ス

一 明治二十九年勅令第八十三號 改正

一 通譯官ヲ外交官又ハ領事官ニ任用スルノ件 改正

一 明治三十年勅令第二百九十號 改正

一 外交官領事官及貿易事務官特別任用ノ件 改正

一 明治二十四年勅令第二百三十七號 改正

一 郡區長府縣參事官典獄警視特別任用ノ件 廢止

一 明治二十三年勅令第九號 廢止

一 郡區長任用ノ件 廢止

一 明治二十六年勅令第九十號 廢止

一 島司任用ノ件 廢止

一 明治二十九年勅令第三百七十四號 廢止

一 衛生試驗所技手ヲ衛生試驗所書記ニ任用ノ件 廢止

一 明治三十年勅令第三百三號 廢止

一 造神宮主事特別任用ノ件 廢止

一 明治三十年勅令第一百五號 改正

一 警部監獄書記看守長特別任用令 改正

一明治三十年勅令第二百五十五號

監獄事務官特別任用ノ件

廢止

一明治三十二年勅令第三號

警視特別任用ノ件

廢止

一明治三十二年勅令第三十五號

集治監典獄廳府縣典獄集治監分監長特別任用令

廢止

一明治三十二年勅令第五百五十八號

警察監獄學校幹事特別任用ノ件

廢止

一明治三十二年勅令第八十三號

臨時沖繩縣土地整理事務局書記任用及俸給ニ關スル件

廢止

一明治三十五年勅令第三十號

神官司廳職員任用令

廢止

一明治三十五年勅令第七十七號

港務部職員特別任用令

改正

一明治二十九年勅令第三百四十五號

稅務屬特別任用ノ件

廢止

一明治三十一年勅令第三百二十二號

司稅官特別任用令

廢止

一明治三十二年勅令第七十五號

專賣局職員特別任用令

改正

一明治三十二年勅令第二百四號

稅關事務官補監視及監吏特別任用令

改正

一明治三十三年勅令第二百二十五號

臨時秩祿處分調査事務局事務官特別任用令

廢止

一明治二十六年勅令第九十二號

陸軍監獄官特別任用令

改正

一明治二十年勅令第八十三號

陸軍准士官下士官採用規則

改正

一明治二十二年勅令第三十五號

陸地測量官任用規則

改正

一明治二十七年勅令第十三號

理事主任任用令

改正

一明治二十八年勅令第十四號

戰時又ハ事變ニ際シ理事及主任任用ノ件

廢止

一明治二十九年勅令第二百二十四號

陸軍監獄長同書記看守長ノ任用ニ關スル件

廢止

一明治二十九年勅令第二百九十五號

錄事任用令

改正

一明治二十九年勅令第三百六號

陸軍通譯生ニ關スル件

改正

一明治三十年勅令第三百八十一號

陸軍通譯官特別任用ノ件

廢止

一明治二十九年勅令第三十一號

臨時陸軍建築部官制

改正

一明治二十年勅令第六十五號

海軍准士官並服役滿期下士判任文官採用ノ件

改正

一明治二十九年勅令第四十八號

望樓長望樓手任用令

改正

一明治二十九年勅令第四百四十六號

海軍筆記任用令

改正

一明治三十年勅令第三百六十九號

海軍通譯官特別任用令

廢止

一明治三十二年勅令第三百三十八號

海軍監獄官特別任用令

改正

一明治三十年勅令第二百二十二號

裁判所書記長特別任用ノ件

廢止

一明治三十年勅令第三百四十五號

文部省圖書審査官及圖書審査官補任用ノ件

改正

一明治三十二年勅令第二百六十號

視學官及視學特別任用令

改正

一明治二十六年勅令第九十四號

營林主事補及森林監守任用令

改正

一明治三十一年勅令第十八號

製鐵所事務官及書記任用ノ件

廢止

一明治三十年勅令第四十九號

水産講習所監事任用ノ件

改正



一明治二十四年勅令第九十二號

東京郵便電信學校卒業生任用ノ件

改正

一明治二十九年勅令第一百五十六號

商船學校長及學生監任用ノ件

改正

一明治三十年勅令第七十八號

海員審判所職員定員及任用令

改正

一明治三十年勅令第二百八十一號

逕信事務官通信事務官通信事務官補特別任用令

廢止

一明治三十年勅令第二百八十二號

鐵道書記補、通信書記補特別任用令

改正

一明治三十年勅令第三百五十八號

鐵道事務官任用ノ件

廢止

一明治三十二年勅令第二百六十九號

海事局長任用ノ件

廢止

一明治三十三年勅令第二百四十七號

鐵道事務官補任用ノ件

廢止

一明治三十年勅令第三百九十六號

北海道廳支廳長特別任用令

廢止

一明治三十年勅令第三百九十七號

北海道廳翻譯生特別任用ノ件

廢止

一明治三十一年勅令第八十一號

北海道廳鐵道書記特別任用ノ件

改正



一明治三十二年勅令第三百九十七號

百十

北海道鐵道部鐵道事務官任用ノ件

廢止

一明治二十六年勅令第八十六號

文官試補及見習規程

廢止

以上

廢止  
改正

三十三件  
二十九件

○文官試驗制度ノ改正ニ伴ヒ廢止又ハ改正スヘキ法律勅令

一法律之部

一明治二十三年第六號

裁判所構成法第二編第一章

改正

一勅令之部

一明治三十二年第六十一號

文官任用令

改正

一明治二十六年第九十七號

文官試驗規則

廢止

一明治二十七年第五十四號

文官試驗委員官制

改正

一明治二十六年第二百六號

外交官及領事官試驗委員官制

廢止

一明治二十六年第八十七號

外交官領事官及書記生任用令

改正

一明治二十六年第二百十三號

外交官及領事官試驗規則

廢止

一明治二十八年第七十五號

外交官及領事官試驗ニ用ユヘキ外國語指定ノ件

廢止

百十一

一 明治二十七年第十三號

理事主任任用令

改正

百十二

以上

廢止  
改正

五四  
件

○普通任用ニ改ムル豫定ノ官職(臺灣總督府職員ヲ除ク)  
(甲) 高等官之部

- 一 造神宮主事
- 二 監獄事務官
- 三 警察監獄學校幹事
- 四 臨時檢疫事務官
- 五 臨時秩祿調査局事務官
- 六 臨時陸軍建築部事務官(武官ヨリ補スル者ヲ除ク)
- 七 林務官(一部)
- 八 鑛山監督官(一部)
- 九 商工局保險事務官

百十三

- 十 特許局審判官(一部)
- 十一 特許局審査官(一部)
- 十二 製鐵所事務官
- 十三 海員審判所審判官(一部)
- 十四 海員審判所理事官(一部)
- 十五 通信事務官
- 十六 鐵道事務官
- 十七 海事局長(一部)
- 十八 海事官(一部)
- 十九 北海道廳及府縣視學官
- 二十 北海道廳鐵道部事務官

(乙) 判任官之部

- 一 衛生試験所書記
- 二 税關事務官補
- 三 臨時沖繩縣土地整理事務局書記
- 四 稅務屬
- 五 集治監書記
- 六 專賣局屬
- 七 特許局審判官補(一部)
- 八 林務官補(一部)
- 九 鑛山監督官補(一部)
- 十 製鐵所書記

十一 廳府縣屬

十二 廳府縣監獄書記

十三 郡區島廳書記

百十六

○特別任用ノ制ヲ存置スヘキ豫定ノ官職(判事、檢事、理事、主理、外交官、領事官、技術官、教官及臺灣總督府職員ヲ除ク)

第一 文官任用令改正案第十三條ニ依リ任用スルコトヲ得ヘキモノ

一 陸軍部内ノ勅任文官

二 海軍部内ノ勅任文官

第二 文官任用令改正案第十四條ニ依リ任用スルコトヲ得ヘキモノ

一 各省官房長

二 祕書官

三 神宮司廳職員

第三 文官任用令改正案第十五條ニ依リ任用スルコトヲ得ヘキモノ

一 學校長

百十七

二 學校舎監

三 翻譯官

四 通譯官

五 編修官

第四 特別高等文官試験ヲ經テ任用スルコトヲ得ヘキモノ

一 北海道廳支廳長

二 府縣島司

三 府縣郡長

四 廳府縣警視(警察署長ニ補スヘキモノ)

五 港務官(衛生事務ニ從事スルモノ)

六 司稅官

七 專賣局事務官

八 裁判所書記長

九 集治監典獄

十 集治監分監長

十一 廳府縣典獄

十二 陸軍監獄長

十三 海軍監獄長

十四 通信事務官補

十五 鐵道事務官補

第五 特別ノ規定ニ依リ任用スヘキモノ又ハ任用スルコトヲ得ヘキモノ

(甲) 高等官之部

一 統計局審査官

二 千住製絨所長

三 陸軍監獄長(武官又ハ理事ヨリ任用スヘキモノ)

四 海軍監獄長(武官又ハ主理ヨリ任用スヘキモノ)

五 文部省視學官

六 圖書審査官

七 帝國圖書館長

八 帝國圖書館司書官

九 水産講習所監事

十 商船學校學生監

十一 在外各地郵便電信局長

十二 在外各地郵便局長

十三 港務官(開港々則ノ事務ニ從事スルモノ)

(乙) 判任官之部

一 外務書記生

二 清國及朝鮮國在勤警部

三 專賣局監視

四 稅關監視

五 稅關監吏

六 陸軍省錄事

七 陸軍監獄書記

八 陸軍監獄看守長

九 海軍省録事

十 海軍監獄書記

十一 海軍監獄看守長

十二 望樓長

十三 望樓手

十四 裁判所書記

十五 集治監看守長

十六 帝國圖書館司書

十七 營林主事補

十八 森林監守

十九 在外各地郵便電信局長

二十 在外各地郵便局長

二十一 通信書記

二十二 通信書記補

二十三 鐵道書記

二十四 鐵道書記補

二十五 三等郵便電信局長

二十六 三等郵便局長

二十七 三等電信局長

二十八 廳府縣警部

二十九 廳府縣看守長

三十 北海道鐵道部書記



- 三十一 廳府縣視學
- 三十二 郡視學
- 三十三 貴衆兩院守衛長
- 三十四 貴衆兩院守衛番長

○改正案ニ於テ技術官ト認ムヘキ官職(技師、技手ノ名稱ヲ用ウルモノ及臺灣總督府職員ヲ除ク)

(甲) 高等官之部

- 一 傳染病研究所長  
職名トナス豫定
- 二 傳染病研究所部長  
同上
- 三 海港檢疫醫官  
鑑定技師ニ改ムル豫定
- 四 大藏省鑑定官  
同上
- 五 稅關鑑定官  
鑑定技師ニ改ムル豫定
- 六 專賣局鑑定官  
陸地測量技師ニ改ムル豫定
- 七 陸地測量師
- 八 學校衛生主事





九 地質調査所長

職名トナス豫定

百二十六

十 特許局審判官

一部ハ事務官一部ハ技師ノ名  
稱ニ改メテ職名トナス豫定

十一 特許局審査官

同上

十二 山林局鑑定官

鑑定技師ニ改ムル豫定

十三 山林局監督官

監督技師ニ改ムル豫定

十四 山林局監督官補

同上

十五 林務官

一部ハ事務官一部ハ技師ノ名稱ニ改ムル豫定

十六 鑛山監督官

同上

十七 鐵道作業局部長

職名トナス豫定

十八 電信燈臺用品製造所長

同上

十九 航路標識管理所長

同上

二十 海員審判所審判官

一部ハ事務官一部ハ技師ニ改メテ職名トナス豫定

二十一 海員審判所理事官

同上

二十二 海事局長

職名ト改ムル豫定

二十三 海事官

一部ハ事務官一部ハ技師ニ改ムル豫定

二十四 警察醫長

二十五 北海道鐵道部長

職名ニ改ムル豫定

二十六 港務醫官

(乙) 判任官之部

一 傳染病研究所助手

技手ニ改ムル豫定

二 大藏省鑑定官補

鑑定技手ニ改ムル豫定

三 稅關鑑定官補

同上

百二十七

四 專賣局鑑定官補

同上

五 陸地測量手

陸地測量技手ニ改ムル豫定

六 集治監監獄醫

七 特許局審査官補

技手及書記ニ區別スル豫定

八 林務官補

同上

九 營林主事

營林技手ニ改ムル豫定

十 鑛山監督官補

技手及書記ニ區別スル豫定

十一 警視廳警察醫

十二 警視廳消防機關士

消防技手ニ改ムル豫定

十三 北海道廳監獄醫

十四 港務醫官補

十五 港務調劑手



○ 翻譯官、通譯官及編修官ノ種類

第一 翻譯官之部

一 外務省翻譯官

一 外務省翻譯官補

一 北海道廳翻譯生

第二 通譯官之部

一 公使館一等通譯官

一 公使館二等通譯官

一 陸軍省通譯官

一 海軍省通譯官

一 外務通譯生

- 一 陸軍省通譯生
- 一 警視廳通譯
- 一 府縣通譯
- 第三 編修官之部
- 一 陸軍省編修
- 一 海軍省編修
- 一 陸軍省編修書記
- 一 海軍省編修書記

○試補ニ要スル經費及定員調

第一 經費

一金七萬五千四百八拾圓

内 譯

給與五萬五千五百圓

試補百十一人ニ對スル一人平均五百圓

廳費八千八百八拾圓

同 一人平均八拾圓

旅費壹萬壹千百圓

同 一人平均百圓

備 考

一、明治三十五年度豫算ニ依ルニ司法官試補ノ給與額ハ一人平均四百圓ヲ以テ積算セルニ拘  
 ハラス本案ニ於テハ試補一人ニ對スル給與額ヲ五百圓トセルハ從來高等文官試験ノ合格  
 者ヲ判任文官ニ初任ノ場合、又ハ帝國大學卒業者ヲ技術官ニ初任ノ場合ニ於ケル俸給額

ヲ標準トセルニ依ル

二、應費及旅費ハ普通一人當リノ豫算額ヲ標準トシ旅費ノミハ實務練習ノ目的ヲ達セシムルノ必要アルカ爲稍之ヲ増加シテ積算セリ

第二 試補定員

一各官官制定員

二、五四七人

試補定員

一一一人

内

内

行政官

六三一人

四〇人

技術官

八九二人

四八人

外交官及領事官

一一三人

六人

特別高等文官試験ニ依リ任用スルコトヲ得ヘキ官職

九一人

一七人

備考

一、司法官試補、理事試補及主理試補ノ定員ハ本表中ニ之ヲ計上セス并ハ從來ヨリ試補制度ヲ施行セルモノナルヲ以テ新タニ豫算ヲ要求スルノ必要ナキヲ以テナリ

二、本表ハ試補ノ實務練習期間ノ最少限ヲ一箇年ト看做シテ算出セリ

三、本表ハ行政官、外交官及領事官並技術官官制定員各二十人ニ付試補一人ノ割合ヲ以テ之ヲ計算セリ但シ端數ニ對シテハ試補一人ヲ加算セリ此ノ計算ハ從來各廳高等官補充員採用ノ實況ニ基ツキタルモノナリ

四、右ノ原則ニ對シ多少ノ斟酌ヲ加ヘタルモノアリ例之樞密院ニハ行政官三人アルモ試補ヲ置カス文部省ニハ行政官十六人アルモ其ノ試補ヲ二人トナシタルカ如シ

五、技術官ハ文官任用令改正案ニ於テ技術官ト認ムルモノハ技師技手ノ名稱ヲ須非サルモ凡テ之ヲ計上セリ

六、親任官ハ之ヲ計上セス

七、文官任用令改正案ニ基ツク特別任用官ハ官房長、秘書官ヲ除クノ外官制定員中ニ計上セ  
ス其ノ理由ハ官房長、秘書官ハ普通任用資格ヲ有スル者ヲ以テ之ニ任用スヘキ場合多カ  
ルヘキモ其ノ他ハ殆ムト普通任用資格ヲ有スル者ヲ採用スルコトナカルヘキヲ以テナリ  
但シ特別高等文官試験ニ依リ任用スルコトヲ得ヘキ官職ハ將來成ルヘク普通任用資格ヲ  
有スル者ヲ以テ之ニ充ツルノ方針ヲ採ルノ必要アルヲ以テ其ノ官職ニ對シテハ試補ヲ特  
別ニ配置スルコトトセリ

八、外交官及領事官ハ特別任用ノ制アルニ拘ハラス其ノ官制總定員ニ對シテ試補ノ員數ヲ計  
上セリ其ノ理由ハ此ノ官職ノ補充ハ大部分試験合格者ヲ採用スル場合多キヲ以テナリ

第三 各廳別試補定員明細表

一内閣官制定員	三十三人	試補定員	三人
内		内	
行政官	二十七人		二人
技師	六人		一人
一樞密院官制定員	三人	試補定員	
内		内	
行政官	三人		
一外務省官制定員	百三十一人	試補定員	七人
内		内	
行政官	十七人		一人
技師	一人		
			百三十七

外交官及領事官

百十三人

百三十八

六人

一 内務省官制定員

千八百八十四人

試補定員

三十八人

(甲) 内務本省之部

百〇四人

六人

内

内

行政官

二十九人

二人

技術官

七十五人

四人

備考 中央衛生會長及幹事ハ無給、臨時建築職員ハ豫算定員ナキヲ以テ之ヲ除ク

(乙) 廳府縣之部

千〇八十人

試補定員

三十二人

内

内

行政官

二百五十一人

十三人

技術官

百七十九人

九人

外二

北海道支廳長

十八人

府縣島司

八人

府縣郡長

五百四十八人

六百五十人

十人

廳府縣警視

八十人

港務官(衛生)

四人

備考

一、北海道廳警察部警視ハ現員ナク府縣警察部警視ハ豫算定員ナキヲ以テ之ヲ計上セス

二、警視廳技師ハ官制定員ナク豫算定員一人ヲ計上セリ

三、府縣技師ハ官制定員ナク豫算定員百三十九人ヲ計上セリ

四、北海道支廳長以下ニ對スル試補員數ハ將來ノ需要ヲ斟酌シテ之ヲ計上セリ

百三十九



一大藏省官制定員

二百四十五人

試補定員

九人

内

行政官

六十七人

四人

技術官

三十人

二人

外二

司税官

百人

三人

專賣局事務官

四十八人

百四十八人

備考 司税官以下ニ對スル試補員數ハ將來ノ需要ヲ斟酌シテ之ヲ計上セリ

一陸軍省官制定員

三十一人

試補定員

三人

内

行政官

三人

一人

内

技術官

二十八人

二人

備考

一、臨時陸軍建築部事務官ハ武官ヨリ補スルモノヲ除クノ外現員ナキヲ以テ之ヲ計上セス

二、陸軍技師ハ官制定員ナキヲ以テ現員ニ依ル

三、陸軍監獄長ハ特別高等文官試験ニ依リ任用スルコトヲ得ヘキ官職ナレトモ普通資格ヲ有

スル者ヲ以テ之ニ充ツヘキ場合殆ムトナカルヘキヲ以テ北海道支廳長又ハ郡長等ニ對ス

ル試補特別配置ノ例ニ倣ハス

一海軍省官制定員

五十八人

試補定員

四人

内

行政官

二人

一人

技術官

五十六人

三人

百四十一



備考

一、海軍技師ハ官制定員ナキヲ以テ現員ニ依ル  
二、海軍監獄長ハ陸軍監獄長ト同シク試補ヲ特別ニ配置セス

一司法省官制定員

七十九人

試補定員

三人

内

行政官

十四人

一人

技術官

二人

一人

外二

裁判所書記長

八人

集治監典獄

四人

集治監分監長

二人

六十三人

二人

廳府縣典獄

四十九人

備考 裁判所書記長以下ニ對スル試補員數ハ將來ノ需要ヲ斟酌シテ之ヲ計上セリ

一文部省官制定員

二十七人

試補定員

三人

内

行政官

十六人

二人

技術官

十一人

一人

一農商務省官制定員

三百五十三人

試補定員

十九人

内

行政官

六十六人

四人

技術官

二百八十七人

十五人

備考

百四十三

百四十二

一、特許局審判官及審査官ノ内四人ヲ行政官、十六人ヲ技術官トシテ之ヲ計上セリ

二、林務官ノ内十六人ヲ行政官、十六人ヲ技術官トシテ之ヲ計上セリ

三、鑛山監督官ノ内十二人ヲ行政官、十二人ヲ技術官トシテ之ヲ計上セリ

一 遞信省官制定員 三百五十三人

試補定員

十八人

内

内

行政官

八十六人

五人

技術官

二百十七人

十一人

外ニ

通信事務官補

三十五人

五十人

二人

鐵道事務官補

十五人

備考

一、海員審判所審判官及理事官專任者中五人ハ行政官、八人ハ技術官トシテ之ヲ計上セリ(行政官ハ高等海員審判所一人、地方海員審判所各一人ノ豫定)

二、海事局長及海事官ハ八人ヲ行政官、四十五人ヲ技術官トシテ之ヲ計上セリ(行政官ハ各局二人ノ豫定)

三、通信事務官補以上ニ對スル試補員數ハ將來ノ需要ヲ斟酌シテ之ヲ計上セリ

一 會計検査院官制定員

三十八人

試補定員

二人

内

内

高等官

三十八人

二人

一 行政裁判所

長官及評定官ハ滿五年以上普通行政官又ハ裁判官ノ職ニ在リタル者ノ中ヨリ任用スルモノナルヲ以テ試補ヲ置カス

一 貴族院事務局官制定員 六人 試補定員 一人

内 行政官 六人 一人

一 衆議院事務局官制定員 六人 試補定員 一人

内 行政官 六人 一人

行政官 六人 一人

○文官普通特別任用區別一覽

凡例

- 一 特別任用中無印ハ普通任用ニ依リテモ任用シ得ヘキ官
- 一 ○印ハ特別任用ニ依ルノ外普通任用ニ依リ任用シ得ヘカラサル官
- 一 △印ハ文官任用令第四條ニ依ル教官技術官
- 一 ×印ハ文官任用令第五條ニ依ル特別ノ學術技藝ヲ要スル行政官
- 一 三十二年勅令第二百二十八號ニ依リ奏任ト爲スコトヲ得ル諸官ハ凡テ勅任ノ欄ノミニ記載ス
- 一 本表ニ於テ特別任用ト稱スルハ文官任用令第一條第一項第二條第一項及第三條ノ規定ノミニ依リ任用セラレモノヲ除ク外一切ノ官職ヲ云フ
- 一 官制ニ依リ特定ノ官吏ヲシテ兼任セシムル官ハ之ヲ省略ス
- 一 文官任用令第六條ニ依リ任用スルコトヲ得ヘキ判任官特別任用ニ關シテハ本表中之ヲ省略ス
- 一 本表中總テ待遇官ハ之ヲ除ク
- 一 本表中官名ノ下ニ記セル數字ハ定員ヲ示ス
- 一 定員ハ官制ニ依ル但シ官制ニ於テ明ラカナラサルモノハ(印ヲ付シ豫算ノ人員ニ依リ之ヲ示ス又官制定員アルモノモ數官ヲ合シテ定員ヲ定メタル者ハ尙(印ヲ以テ豫算定員ノ區別ヲ示ス
- 一 官制定員豫算定員共明カナラサルモノハ現員ヲ以テ之ヲ示ス此ノ場合ハ數字上現ノ字ヲ冠ス
- 一 陸海ニ依リ勅任官トナルコトヲ得ル官ハ官名ヲノミ記シ定員ヲ示サス
- 一 郡區書記ハ國庫支辨ニ屬スルモノ、ミノ人員ヲ示ス
- 一 本表ハ臺灣ニ關スル分ヲ除ク













一少尉	二
一中尉	二
一大尉	四
一少佐	三
一中佐	二
一大佐	二
一少將	三
一中將	三

最下期限ヲ定メス

十五年(見習期間ヲ合シテ十五年六箇月)

備考

- 一、戦時ニ在テハ各官ノ實役停年ヲ其ノ半ニ減スルコトヲ得
- 二、左ノ場合ニ於テハ全ク例外進級ヲ爲ス

- (一) 敵前ニ於テ殊勳ヲ奏シ首將之ヲ全軍ニ布告シタルトキ
- (二) 敵前ノ軍隊ニ在テ人員缺亡シ補除定規ヲ履ム能ハサルトキ

海軍高等武官進級實役停年例

一士官候補生 見習期間一年

一少尉	一
一中尉	二
一大尉	五
一少佐	二
一中佐	二
一大佐	二
一少將	三

十四年(見習期間ヲ合シテ十五年)





一中將

歴戦者或ハ遠征ニ従事シタル者

百五十八

備考

一、海上勤務日數ノ三分ノ一ハ實役停年ニ加算ス

二、戦時ニ於テハ實役停年最下限ヲ半減スルコトヲ得

三、左ノ場合ニ於テハ定規ニ依ラス進級セシムルコトヲ得

(一) 敵前ニ於テ殊勳ヲ奏シ首將之ヲ全軍ニ布告セシ者

(二) 戦時ニ在テ人員缺乏シ叙任ノ定規ヲ履ム能ハサルモノ

○判事檢事定員及試補員數調

一判事檢事豫算定員(明治三十五年度)

一、六七一人

一試補豫算定員(明治三十五年度)

一五〇人

右試補給與ハ一人平均年額四百圓ニシテ總計六萬圓ナリ

百五十九

○文官高等試験合格者採用員數表

區分	二十八年 度	二十九年 度	三十年 度	三十一年 度	三十二年 度	三十三年 度	三十四年 度	合 計
内閣			一	三	二			六
宮内							一	一
内務	一〇	二〇	一三	九	二	二	四	七八
大藏	二	九	七	四	三	一六	九	五九
外務			一	一				三
陸軍								一
海軍							一	二
司法			一	三			一	六
逓信	二	六	四	七	六	四	四	三三
農商	一	二	五	四	五	六	三	二六
文部						三		三
検査院	一	三	二	一				七
貴族院				一		一		二
衆議院	三	一	一	一	一			七
計	二八	四一	三四	三五	三〇	四三	二三	二三四

備考

- (一) 年度ハ會計年度ニ依ル
- (二) 本表ニハ該試験合格ノ上直ニ高等文官ニ採用シタル者及判任文官ニ採用シタル者竝ニ判任文官在官ニシテ該試験ニ合格シタル者ヲ計上ス
- (三) 廳府縣ハ内務省ニ製鐵所ハ農商務省ニ計入ス
- (四) 臺灣總督府ハ之ヲ省ク

○文官高等試験自二十八年出願者合格者員數比較一覽(三十四年十一月十三日調)

		二十八年	二十九年	三十年	三十一年	三十二年	三十三年	三十四年	自二十八年計 至三十四年計
出願者 合格者計	出願者	百三十三人	二百二十一人	三百十五人	四百六十三人	四百三十五人	四百九十一人	四百九十四人	二千五百五十四人
	合格者	三十七人	五十八人	五十四人	四十一人	六十四人	五十八人	四十二人	三百四十六人
出願者比較割合		〇、二七八	〇、三二六	〇、一七一	〇、〇八八	〇、一四七	〇、二一八	〇、〇八五	〇、一三五
文官高等試験自二十八年筆記本試験受験者合格者員數比較一覽(同)									
大學 合格者	合格者	四十三人	六十八人	五十三人	六十四人	七十三人	九十四人	七十二人	四百六十七人
	筆記本試験受験者 合格者比較割合	〇、五八一	〇、六〇二	〇、五〇九	〇、三五九	〇、三〇一	〇、四三五	〇、二二三	〇、四一五
大學以外ノ者 合格者	合格者	三十八人	四十一人	九十三人	百五十四人	百一人	九十二人	九十九人	六百十八人
	筆記本試験受験者 合格者比較割合	〇、三二五	〇、二二九	〇、三九〇	〇、二一六	〇、四一五	〇、一九五	〇、二六二	〇、二四五

年及種別	學校別		大學法律科		政治科		同選科		東京法學院		東京專門學校		專修學校		無學校		明治法律學校		和佛法律學校		獨逸協會學校		慶應義塾正科		第三高等學校		日本法律學校		關西法律學校		英吉利法律學校		計	
	本試験 受験者	筆記 合格者	本試験 受験者	筆記 合格者	本試験 受験者	筆記 合格者	本試験 受験者	筆記 合格者	本試験 受験者	筆記 合格者	本試験 受験者	筆記 合格者	本試験 受験者	筆記 合格者	本試験 受験者	筆記 合格者	本試験 受験者	筆記 合格者	本試験 受験者	筆記 合格者	本試験 受験者	筆記 合格者	本試験 受験者	筆記 合格者	本試験 受験者	筆記 合格者	本試験 受験者	筆記 合格者	本試験 受験者	筆記 合格者	本試験 受験者	筆記 合格者		
明治二十八年	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19
明治二十九年	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19
明治三十年	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19
明治三十一年	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19
明治三十二年	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19
明治三十三年	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19
合計	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19	100	19

○文官高等試験ノ本試験合格者及不合格者數並學校別概表  
 本表中放棄シタル者ハ筆記試験ニ及第シタル者ト雖モ總テ除算ス

○各試験合格者調(文官高等試験ヲ除ク)

年次	第一回判検事	辯護士	外交官領事官	理事	主理
三十年	四二	二九	七	一	一
三十一年	八一	八八	八	一六	三
三十二年	五一	三九	八	一	一
三十三年	七九	四六	一	一	二
三十四年	八〇	六二	五	一	一

備考

- (一) 辯護士ヲ除クノ外表記合格者ハ一旦盡ク採用サレタルモノトス
- (二) 理事三十一年十六人ハ三十年ノ試験成績ヲ三十一年ニ發表シタルモノナリ

○司法官試補ニシテ帝國大學法科大學卒業者ヨリ採用シタル人員調

年次	員數
明治三十年	十二人
同三十一年	二十三人
同三十二年	六十八人
同三十三年	二十九人
同三十四年	四十三人

計	政 治 科	法 科	二十五年
七〇	九	六一	二十六年
七八	二四	五四	二十七年
七四	三四	四〇	二十八年
八七	三〇	五七	二十九年
九七	三六	六一	三十年
六七	二四	四三	三十一年
一〇七	四三	六四	三十二年
一五五	四七	一〇八	三十三年
一二九	五六	七三	三十四年
一〇六	三八	六八	三十五年
一四一	五八	八三	合計
一一一	三九九	七二二	

○東京帝國大學法科大學卒業生員數表



○現行試験規則ニ關スル一覽表

種別	文官高等試験		外交官領事官試験		判檢事登用試験	辯護士
	本試験 口筆 述記	論文 論 文	第一次 文	第二次 口筆 述記		
種目	憲法刑法民法行政法經濟學國際法	英佛獨文中及其譯文	憲法民法商法民法訴訟法行政法刑法民法訴訟法	憲法民法商法民法訴訟法行政法刑法民法訴訟法	憲法民法商法民法訴訟法行政法刑法民法訴訟法	憲法民法商法民法訴訟法行政法刑法民法訴訟法
試験ノ種類	論文ニ關聯スル口筆述記	論文	口筆述記	口筆述記	口筆述記	口筆述記
科目	憲法刑法民法行政法經濟學國際法	英佛獨文中及其譯文	憲法民法商法民法訴訟法行政法刑法民法訴訟法	憲法民法商法民法訴訟法行政法刑法民法訴訟法	憲法民法商法民法訴訟法行政法刑法民法訴訟法	憲法民法商法民法訴訟法行政法刑法民法訴訟法
資格	一、成年以上、一重罪犯者等ヲ除ク 論文試験ニ及第シタル者 豫備試験及第者及豫備試験ヲ免シタル者	同 上	論文試験ニ及第シタル者 第一次試験ニ及第シタル者	論文試験ニ及第シタル者 第一次試験ニ及第シタル者	成年以上、 重罪犯者等ヲ除ク、 官立學校及司法大臣ノ指定ノ私立學校三學年間ノ法律學卒業者、 外國大學校之ト同等學校ニ於テ法律學卒業者、 帝國大學法科大學卒業者	成年以上、 重罪犯者等ヲ除ク、 官立學校及司法大臣ノ指定ノ私立學校三學年間ノ法律學卒業者、 外國大學校之ト同等學校ニ於テ法律學卒業者、 帝國大學法科大學卒業者
有効期限			二箇年	二箇年		
場	東京		外務省	外務省	司法省	各控訴院
手数料	十圓		十圓	十圓	十圓	十圓

百七十三



高等文官試験ニ關スル各國制度ノ摘要

主 理 試 驗		理 事 試 驗		試 驗
實 務 口 筆 述 記	登 用 口 筆 述 記	實 務 口 筆 頭 記	登 用 口 筆 述 記	口 述
述 口 筆 記 述 海軍刑法同治罪法同懲罰令刑 法民法戒令發令國際公法 同私法ノ中三科目以上	述 口 筆 記 述 刑 法 海 軍 刑 法 二 關 ス ル 事 件 二 件 以 上 民 事 以 上 同 上 科 目 ノ 中 三 科 目	述 口 筆 記 述 刑 法 陸 軍 刑 法 二 關 ス ル 刑 事 ハ 數 件 以 上 民 事 一 件 若 ハ 數 件 以 上 民 事 陸 軍 刑 法 同 治 罪 法 同 懲 罰 令 刑 法 民法 戒 令 發 令 國際 公 法 等 中 三 科 目 以 上	述 口 筆 記 述 政 治 罪 法 民 法 刑 法 陸 軍 刑 法 同 上 科 目 ノ 中 三 科 目 以 上	民 法 商 法 刑 法 民 刑 刑 訴 ノ 中 三 科 目
登 用 試 驗 及 第 三 者 試 補 法 官 試 補 タ ル 資 格 ア ル 者	成 年 以 上 重 罪 刑 事 者 等 大 臣 指 定 五 條 及 判 事 檢 事 用 立 學 校 及 判 事 檢 事 等 大 學 校 指 定 五 條 依 リ 公 立 法 校 ノ 法 律 卒 業 者 之 下 同 等 學 校 外 法 律 卒 業 者 之 下 同 等 學 校 法 律 卒 業 者 之 下 同 等 學	登 用 試 驗 及 第 三 者 試 補 法 官 試 補 タ ル 資 格 ア ル 者	成 年 以 上 重 罪 刑 事 者 等 大 臣 指 定 五 條 依 リ 公 立 法 校 ノ 法 律 卒 業 者 之 下 同 等 學 校 外 法 律 卒 業 者 之 下 同 等 學 校 法 律 卒 業 者 之 下 同 等 學	
實 務 試 驗 東 京	登 用 試 驗 實 務 試 驗 陸 軍 省 法 官 部 海 軍 省 法 官 部	實 務 試 驗 陸 軍 省 法 官 部 海 軍 省 法 官 部	登 用 試 驗 陸 軍 省	口 述 試 驗 司 法 省
十 圓		十 圓		

百七十四

○高等文官試験ニ關スル各國制度ノ摘要

第一 巴威國

- 一、判事、檢事、公證人、内務行政官、高等財務官及辯護士タラムトスル者ニハ凡テ同一ノ試験ヲ行フ
- 二、試験ハ第一回及第二回ニ分チテ之ヲ行フ
- 三、第二回試験ノ要目左ノ如シ

一、資格 獨乙大學ニ三年間在學スルヲ要ス

不合格者ハ受験ノ翌年以後更ニ一回限り受験スルコトヲ得

一、科目 羅馬民法、獨乙私法(商法及爲替法ヲ包含ス)民事訴訟法、刑事訴訟法、國際法ノ要義、  
竝國法、舊教及新教ノ宗教法、行政法、經濟學、財政學

一、方法 口述及筆記ノ二ト爲シ筆記試験ニ合格スルニ非サレハ口述試験ヲ受クルコトヲ得  
ス

口述試験ハ公開トス

毎年三大學校ニ於テ之ヲ行フ

四、第二回試験ノ要目左ノ如シ

一、資格 第一回試験ニ合格シタル後三年間事務見習ヲ爲シタル者ニ限ル其ノ事務見習ハ十

八箇月ハ裁判所十二箇月ハ内務行政官廳六箇月ハ辯護士ニ就キ之ヲ爲スヲ要ス

第二回試験ニ合格セサル者ハ更ニ一回限り受験スルコトヲ許ス

一、科目 甲種乙種ノ二種ト爲シ甲種ハ普通民法、帝國民法(商法爲替法及破産法等)民事訴

訟法(破産裁判所ヲ包含ス)刑法及刑事訴訟法トシ乙種ハ巴威國國法、獨乙帝國國

法、新教及舊教ノ宗教法、警察法、經濟學及社會的立法論及財政學トス

一、方法 筆記ニシテ毎年一回指定ノ縣廳所在地ニ於テ之ヲ行フ

受験者ハ數日ヲ隔テ、兩種ノ試験ヲ受ケ各種ノ試験ハ五日間繼續シテ之ヲ行フ

問題ハ各種ニ就キ九トシ其ノ中一問題ハ實用的ノモノヲ選フ

第二 普魯士國

甲 高等行政官

一、試験ヲ分チテ法學試験及大試験ノ二回トス

二、法學試験ヲ受ケヘキ資格科目、試験ノ場所方法等ハ司法官ノ法學試験ニ同シ

三、大試験ニ關スル要目左ノ如シ

一、資格 法學試験ニ合格シタル後少クモ二年間裁判所及二年間行政官廳ニ就キ見習ヲ爲ス

ヲ要ス

兵役ヲ終リ又ハ其ノ義務ノ全部又ハ一部ヲ免セラレタルコトヲ證明スルヲ要ス

二回不合格ナルトキハ高等行政官ト爲ルコトヲ得ス

一、方法 口述及筆答トス筆答試験ニ合格セサルトキハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

試験ハ文官高等試験委員之ヲ行フ

- 一、科目 普國ノ公法、民法就中憲法、行政法及經濟學財政學トス筆答ニハ二問題ヲ發シテ六週間内ニ提出セシメ口述ニハ三日前ニ交付シタル行政訴訟事件ニ就キ答辯セシム
- 四、稅務官タラムトスル者ハ第二回試験即チ大試験ニ合格シタル外租稅ノ管理法ニ就キ更ニ見習ヲ爲スヲ要ス

五、大試験ニ合格シタル者ハ縣廳試補ヲ命セラレ高等行政官ト爲ルコトヲ得

乙 司法官

- 一、裁判官、檢事、辯護士、代書人公證人ニ對シテ行フ試験ニシテ之ヲ法學試験大試験ノ二回ニ分ツ
- 二、法學試験ノ要目左ノ如シ

- 一、資格 三年間大學ニ於テ法律學ヲ學ブヲ要シ二回不合格ナルトキハ爾後ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス

一、科目 公法、民法、法律沿革史及國制學大意トス

一、方法 筆答及口述ノ二種トシ筆答試験ニ合格セサル者ハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

控訴院ニ於テ之ヲ行フ

三、大試験ノ要目左ノ如シ

- 一、資格 法學試験ニ合格シタル後少クモ四年間地方裁判所、區裁判所又ハ檢事、辯護士若ハ公證人ニ就キ見習ヲ爲スヲ要ス即チ少クモ一年半ハ區裁判所其後少クモ一年半ハ地方裁判所及檢事其後少クモ六箇月ハ辯護士ニ就キ見習ヲ爲スヲ要ス
- 二回不合格ナルトキハ更ニ試験ヲ受クルコトヲ得ス

一、科目 獨乙ノ公法民法及普國ノ民法公法及殊ニ本人ノ見習タル地ノ法律ニ關シ試験ヲ行フ

一、方法 筆答及口述トシ筆答ハ學問上ノ問題及擬律ヲ六週間内ニ提出セシメ口述ハ三日前

ニ交付シタル訴訟事件ヲ講義セシム

全國ノ爲ニ設ケタル司法試験委員之ヲ行フ

四、大試験ニ合格シタル者ハ司法官試補ト爲ルコトヲ得

### 第三 墺國

一、試験ヲ分チテ學術試験及實務試験ト爲シ學術試験ハ行政官司法官ヲ通シテ之ヲ行ヒ實務試験ハ各別ニ之ヲ行フ

二、學術試験ヲ分チテ普通試験、行政試験及司法試験ノ三種ト爲シ三種ノ試験ニ凡テ合格スルニ非サレハ學術試験ヲ終リタルモノト爲スコトヲ得ス但シ三種中孰レヲ先ギニ受クルヤハ受験者ノ隨意トス

三、學術試験ノ要目左ノ如シ

一、資格 二種ハ大學在學中何時ニテモ(一定ノ時期ヲ經過スレハ)之ヲ受クルコトヲ得他ノ

一部ハ四箇年在學者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

墺國大學校ニ於テ得タル法學士ノ稱號ヲ有スル者ハ全國ニ於テ及第シタル學術試験ト同一ノ効力アリ

各種ノ試験ハ受験後二箇年内ニ他種ノ試験ヲ受ケサルトキハ既ニ受ケタル試験ハ無効トス

試験ニ合格セサル者ハ試験委員ノ定メタル最下限ノ時期ヲ經過シタル後一回ニ限り更ニ試験ヲ受クルコトヲ得

### 一、科目

- (一) 普通試験 法理、行政、經濟、財政、普通統計、墺國統計ノ諸學及萬國史、墺國史
- (二) 行政試験 墺國々々法、教會法、行政法及理財法
- (三) 司法試験 刑法、刑事訴訟法、民法、商法、爲替法、民事訴訟法及非訟事件手續法

一、方法 普通試験ハ口述及筆答トシ行政試験及司法試験ハ筆答トシ口述ハ志願者ノ希望ニ依リ何時ニテモ之ヲ行ヒ筆答ハ毎月二回之ヲ行フ

四、行政官試験又ハ司法官試験ハ先ツ六週間以上三箇月以下見習ノ爲試用シ試験ニ適シタルトキ始メテ官吏トシテノ宣誓ヲ爲ス

五、行政官試験及實務試験ノ要目左ノ如シ

一、試験ハ一箇年以上行政廳ニ見習ヲ爲スヲ要ス

一、不合格者ハ次回ニ限り受験ヲ許ス

一、事務ノ異ル官吏タラントセハ更ニ所定ノ條件ヲ具備スルトキハ其ノ實務試験ヲ受クルコトヲ得

一、試験委員ハ地方廳ノ官吏ヲ以テ之ヲ組織シ口述ト筆答ノ二ト爲シ一定ノ試験科目ヲ定メ

ス立案、現行制度、事務章程等ニ關スル問題ヲ發ス

六、司法官試験及實務試験ノ要目左ノ如シ

一、試験ハ一年以上始審裁判所、檢事局及區裁判所又ハ司法行政合併ノ郡廳ニテ見習ヲ爲スヲ要ス

ヲ要ス

一、試験ハ口述筆答ト爲シ通常控訴院ニテ之ヲ行ヒ委員ハ通常控訴院長之ヲ定ム

一、筆答試験ハ民法刑法ニ關シ各一間ヲ發シ甲ハ判決乙ハ檢事ノ申立書又ハ豫審決定書ヲ作

ラシム

一、口述試験ハ民事刑事ニ關スル諸法律及司法制度、事務章程等ニ就キ之ヲ行フ

第四 佛國

一 高等文官登用試験法ハ各種ニツキ區々ノ規定ヲ設ケ試験科目ノ如キハ官吏ノ種類ニ依リ差異

アリト雖モ受験資格、試験ノ方法等ハ大抵大同小異ナリ左ニ參事院見習ノ試験ニ關スル要目

ヲ掲ケテ之ヲ例示ス



參事院二等見習志願者

百八十六

一、資格

- (一) 佛人タル諸權利ヲ有スルコト
- (二) 二十一歳以上二十五歳以下タルコト
- (三) 佛國大學法學士文學士理學士其ノ他專門學校ヨリ學位證書卒業證書學力認定證書等ヲ得タルコト

- 一、科目 佛國憲法ノ原則、萬國公法ノ原則、佛國民法司法職制法ノ原則、經濟學ノ原理、行政法
- 一、方法 委員ハ議官三名辨理官一名トシ試験ハ豫備試験及本試験トシ本試験ハ筆記及口述トス

豫備試験ニ合格スルニ非サレハ本試験ヲ受クルコトヲ得ス

- 一 參事院一等見習ハ二等見習者ヲ試験シテ之ヲ登用ス豫備試験ヲ行ハサル外ハ殆ント二等見習

登用試験ニ同シ

第五 英國

- 一 試験制度區々ナリ千八百七十年ノ樞密院令別表A表ノ諸官登用ニ關スル制度ヲ左ニ例示ス
- 一 志願者ハ年齢十八年以上二十四年以下タルコト
- 一 試験ヲ分チテ豫備試験及本試験トス
- 一 豫備試験ノ科目ハ筆蹟、綴字、算術、英作文ノ五トス
- 一 本試験ノ科目左ノ如シ
  - 一 英作文(筆蹟ヲ含ム)
  - 一 英國史(法律史憲法史ヲ含ム)
  - 一 英語及英文
  - 一 語學(希臘)

百八十七

一文學 羅馬 佛國 獨國  
一歴史 伊國

一數學

一博物學

一倫理(論理心理倫理)

一法理

一經濟

右ノ科目中全部又ハ一部ノ試験ヲ受クルハ志願者ノ隨意トス

一 試験ハ一定ノ合格員數ヲ限り豫メ之ヲ告示シ合格者ヲ以テ缺員及告示シタル官職ノ將來ノ缺位ヲ成績順ニ依リ補充ス

一 人物才能ノ監査ノ爲六箇月間實務ヲ練習セシメ其ノ成績ニ依リ其ノ廳ノ長官之ヲ適任ト

認メ文官委員之ニ同意シ依テ適任證書ヲ與ヘタルモノニ非サレハ續テ官務ニ從事スルコ

トヲ得ス